

江戸川区

介護保険事業計画及び熟年しあわせ計画 改定のための基礎調査報告書 ＜ 概要版 ＞

平成26年(2014年)4月

 江戸川区

〔目次〕

【1】 調査の概要	1
1. 調査の目的.....	1
2. 調査の概要.....	1
【2】 調査の結果の概要	2
1. 熟年者の健康と生きがいに関する調査.....	2
(1) 性別、現在の満年齢.....	2
(2) 世帯構成、日中独居の状況.....	2
(3) 介護予防のための取り組み状況.....	3
(4) 今後取り組みたい活動.....	3
(5) 現在参加している余暇活動・社会参加活動.....	4
(6) 今後参加したい余暇活動・社会参加活動.....	4
(7) 地域の支え手としてできること.....	5
(8) 現在の就労状況.....	6
(9) 今後の就労意向.....	6
2. 介護予防に関する調査.....	7
(1) 性別、現在の満年齢.....	7
(2) 世帯構成、日中独居の状況.....	7
(3) 介護予防相談会の参加状況、行かなかった理由.....	8
(4) 介護予防事業の参加状況.....	8
(5) 介護予防事業に参加してよかったこと.....	9
(6) 今後の介護予防の取り組み方の希望.....	10
(7) 今後取り組みたい活動.....	10
(8) 介護予防に継続して取り組むために必要な環境・条件.....	11
3. 介護保険サービス利用に関する調査.....	12
(1) 性別、現在の満年齢.....	12
(2) 世帯構成、日中独居の状況.....	12
(3) 要介護度.....	13
(4) 介護保険サービスの利用状況.....	14
(5) 介護保険サービス利用の満足度.....	14
(6) 今後利用したい介護保険サービス.....	15
(7) 今後利用したい介護保険外サービス.....	16
(8) 家族介護の状況.....	17
(9) 主な介護者の年齢.....	17
4. 熟年者のお元気度チェック調査.....	18
(1) 性別、現在の満年齢.....	18
(2) 参加している地域活動、活動に参加したきっかけ.....	18

(3) 活動への参加回数、活動年数	19
(4) 生きがいの状況	20
5. 区民向け4調査間の比較結果	21
(1) 健康状態	21
(2) かかりつけ医の有無	22
(3) 在宅療養に対する意向	23
(4) 生活機能の評価	24
(5) 日常生活の自立度の評価	26
(6) 社会参加の評価	27
(7) 日常生活の中で手助けしてほしいこと	28
(8) 近所の人とのつきあいの程度	29
(9) 認知症に関する相談先	30
(10) 今後介護を受けたい場所	31
(11) 在宅で暮らし続けるために必要と思うこと	32
(12) 介護保険サービス利用に対する考え	33
(13) 介護保険料の家計への影響	33
(14) 区の熟年者施策の充実度	34
(15) 区の熟年者施策で充実してほしいこと	35
6. 介護保険サービス事業者調査	36
(1) 実施している介護サービス事業	36
(2) 事業の拡大・新規参入を考えているサービス	37
(3) 人材確保において困っていること	38
(4) 医療ニーズの高い利用者の支援のために必要なこと	39
(5) 認知症の方の地域生活を支援するために必要なこと	40
(6) 熟年相談室(地域包括支援センター)に充実してほしい役割	41
(7) 医療機関との連携状況	42
(8) 区に充実・支援してほしいこと	43
(9) 今後力を入れるべき熟年者施策	44
7. 介護支援専門員調査	45
(1) 本人の性別、現在の満年齢	45
(2) 介護支援専門員としての実務年数	45
(3) 担当している利用者数	46
(4) 認知症の方の地域生活を支援するために必要なこと	47
(5) 医療ニーズの高い利用者の在宅療養を支援するために必要なこと	48
(6) 医療との連携のために必要なこと	49
(7) 熟年相談室(地域包括支援センター)に充実してほしい役割	50
(8) 充実すべき介護保険以外のサービス	51
(9) 区に支援・充実してほしいこと	52

【1】調査の概要

1. 調査の目的

本調査は、平成27年度～平成29年度を計画期間とする「第6期介護保険事業計画」及び「熟年しあわせ計画」の改定の基礎資料として用いるために実施した。

2. 調査の概要

調査名	熟年者の健康と生きがいに関する調査	介護予防に関する調査	介護保険サービス利用に関する調査
調査方法	郵送配付、郵送回収		
調査対象者	65歳以上の要介護認定を受けていない区民 (平成25年11月1日現在)	65歳以上の二次予防事業の候補者・決定者となっている区民 (平成25年11月1日現在)	65歳以上の要介護認定を受け、施設サービス、認知症高齢者グループホーム、有料老人ホームを利用していない区民 (平成25年11月1日現在)
抽出元及び抽出方法	住民基本台帳より無作為抽出	健康診査等の結果より無作為抽出	介護保険被保険者台帳より無作為抽出
調査期間	平成25年11月15日～12月11日		
対象者及び回収率	対象者数：2,500 有効回収数：1,666 有効回収率：66.6%	対象者数：1,000 有効回収数：723 有効回収率：72.3%	対象者数：2,500 有効回収数：1,490 有効回収率：59.6%

調査名	熟年者のお元気度チェック調査	介護保険サービス事業者調査	介護支援専門員調査
調査方法	活動の場にて協力を得られた方に直接配布、郵送回収（一部その場で回収）	郵送配付、郵送回収	
調査対象者	リズム運動くすのきクラブ くすのきカルチャー教室 シルバー人材センター ウォーキング参加者	区内すべての介護保険サービス事業者 (平成25年9月1日現在)	NPO法人江戸川区ケアマネジャー協会に加入し、介護支援専門員として従事している会員
抽出元及び抽出方法	—	介護保険事業者名簿	NPO法人江戸川区ケアマネジャー協会会員名簿
調査期間	平成25年12月2日～平成26年1月10日	平成25年11月15日～12月11日	
対象者及び回収率	対象者数：512 有効回収数：372 有効回収率：72.7%	対象者数：405 有効回収数：275 有効回収率：67.9%	対象者数：423 有効回収数：256 有効回収率：60.5%

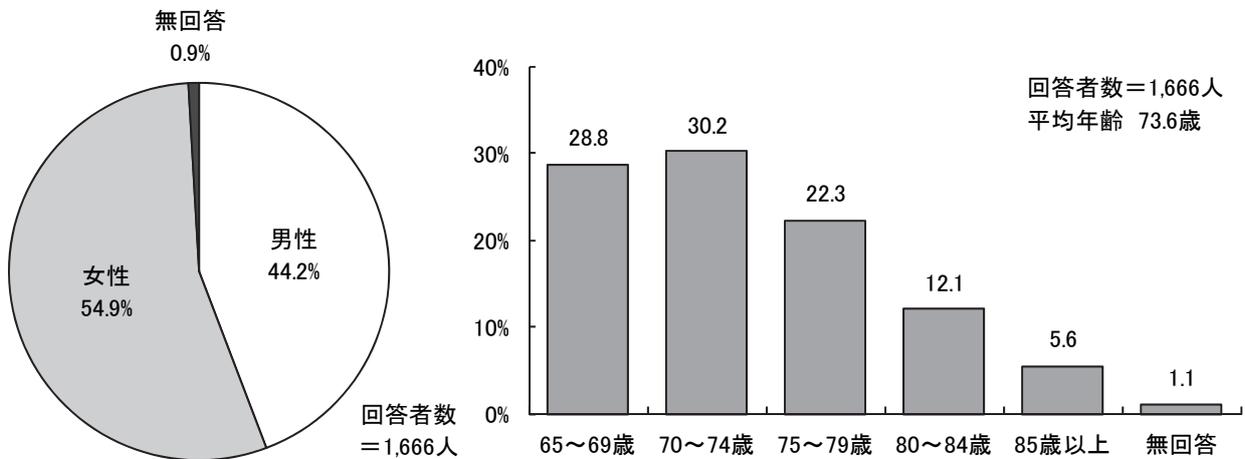
【2】調査の結果の概要

1. 熟年者の健康と生きがいに関する調査

(1) 性別、現在の満年齢

性別は、「男性」44.2%、「女性」54.9%と、女性のほうが10.7ポイント高い。

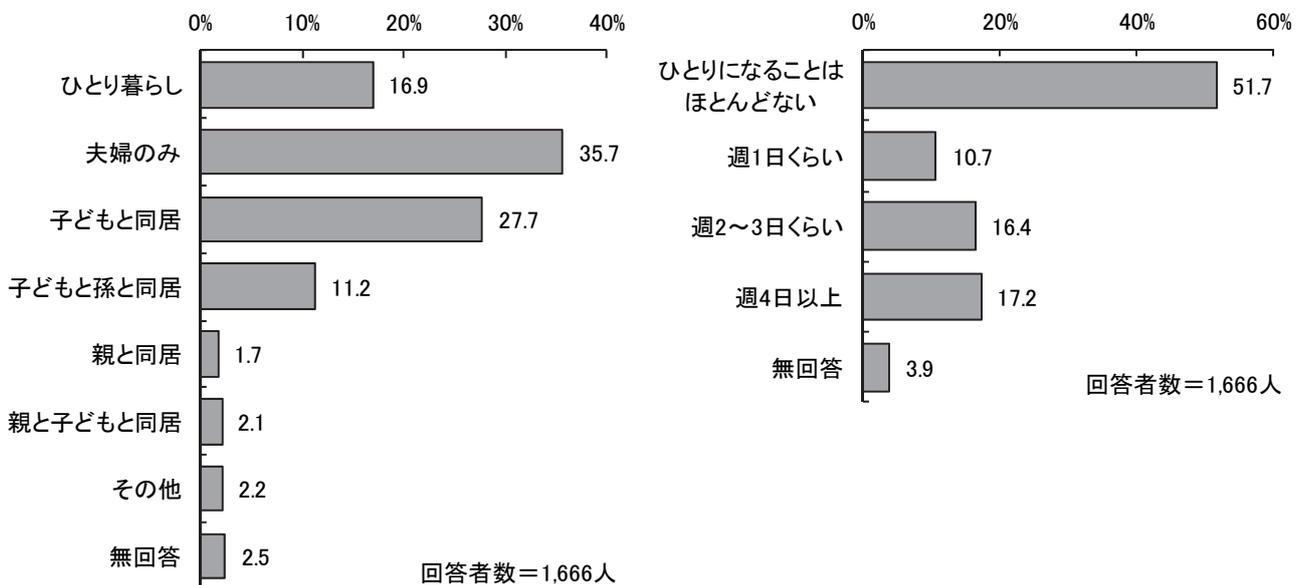
年齢は、「70～74歳」30.2%、「65～69歳」28.8%の順であり、これらをあわせた『65～74歳』が59.0%と約6割、「75～79歳」22.3%、「80～84歳」12.1%、「85歳以上」5.6%をあわせた『75歳以上』が40.0%となっている。平均年齢は73.6歳となっている。



(2) 世帯構成、日中独居の状況

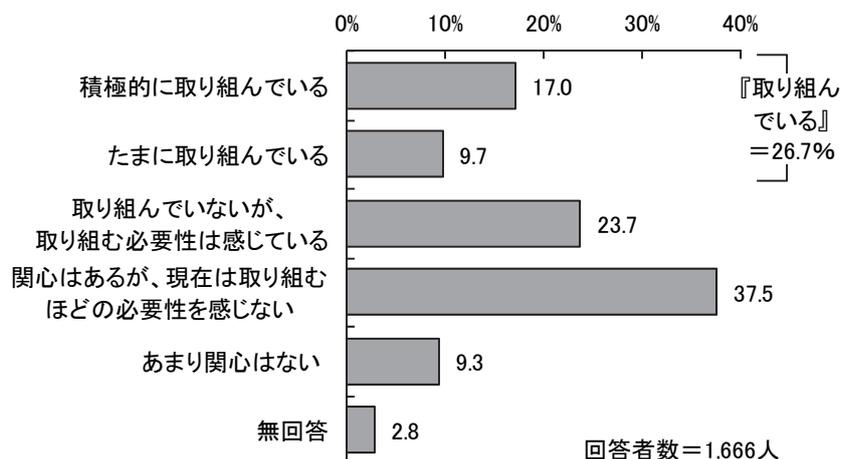
世帯構成は、「夫婦のみ」35.7%がもっとも高く、次いで「子どもと同居」27.7%、「ひとり暮らし」16.9%、「子どもと孫と同居」11.2%の順となっている。

日中独居の状況は、「ひとりになることはほとんどない」が51.7%と半数強を占める一方、「週4日以上」という回答も17.2%と2割近い。



(3) 介護予防のための取り組み状況

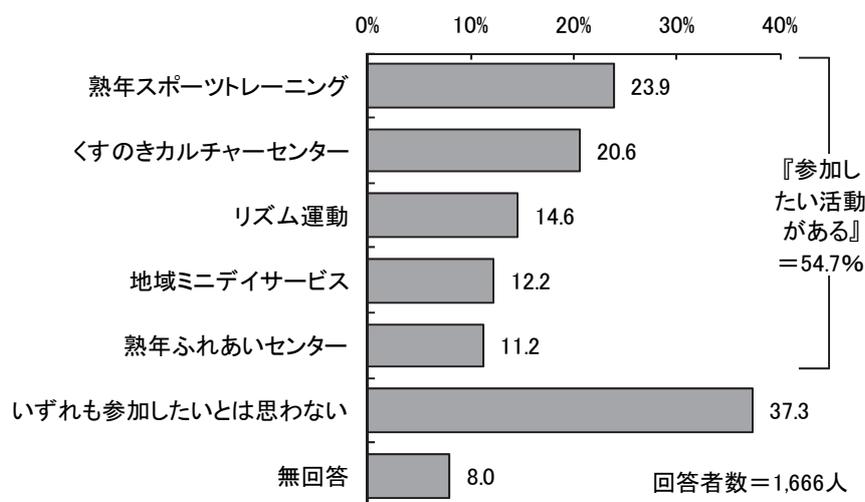
介護予防のための取り組み状況は、「関心はあるが、現在は取り組むほどの必要性を感じない」37.5%、「取り組んでいないが、取り組む必要性は感じている」23.7%の順となっている。「積極的に取り組んでいる」17.0%と「たまに取り組んでいる」9.7%をあわせた『取り組んでいる』人の割合は26.7%であった。



※『取り組んでいる』=「積極的に取り組んでいる」+「たまに取り組んでいる」

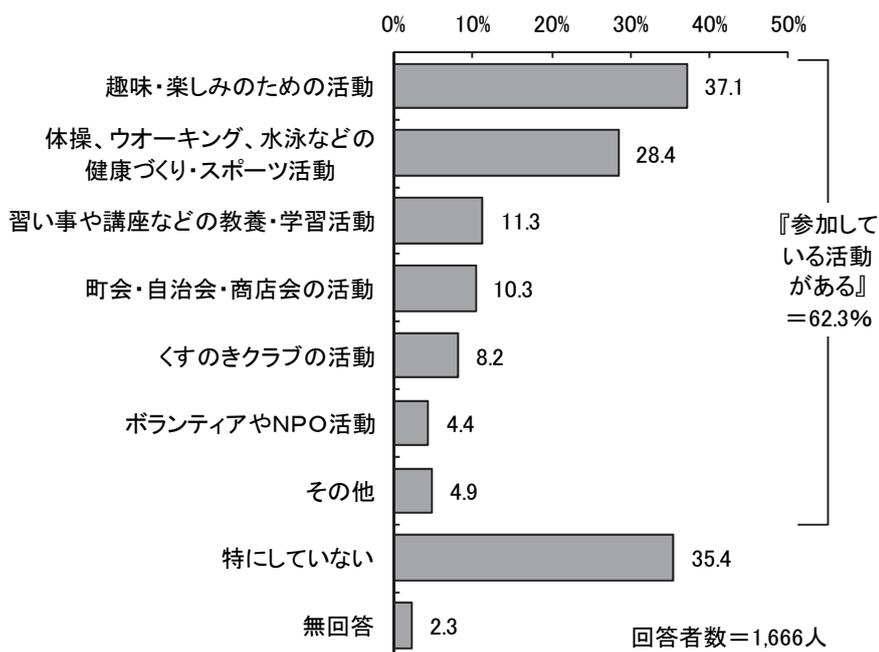
(4) 今後取り組みたい活動

今後取り組みたい活動は、「いずれも参加したいとは思わない」が37.3%を占め、『参加したい活動がある』人の割合は、54.7%となっている。具体的には、「熟年スポーツトレーニング」23.9%、「くすのきカルチャーセンター」20.6%、「リズム運動」14.6%の順となっている。



※『参加したい活動がある』=100%－「いずれも参加したいとは思わない」－「無回答」

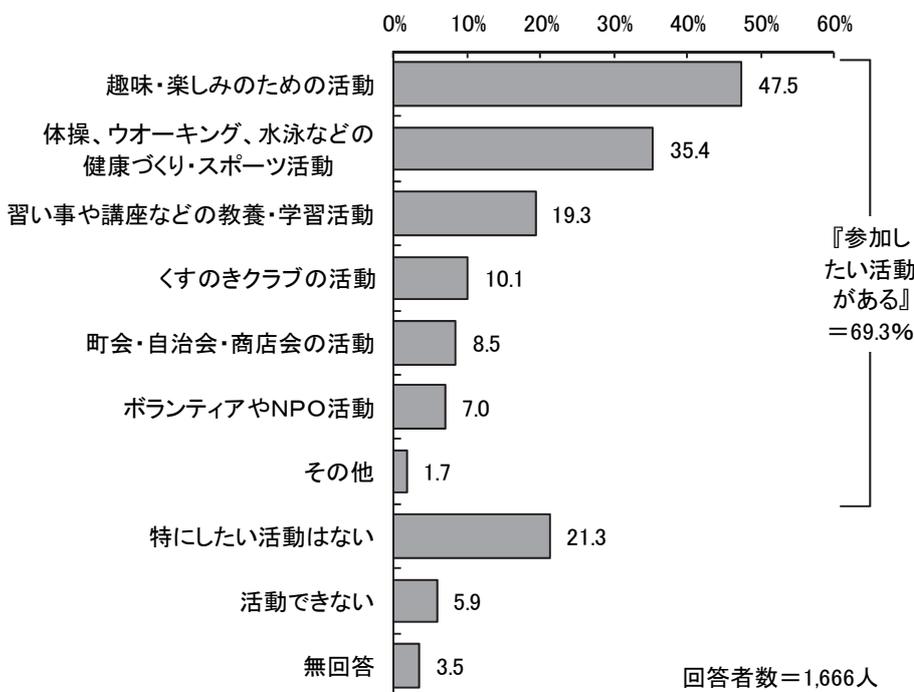
(5) 現在参加している余暇活動・社会参加活動



余暇活動・社会参加活動について、現在『参加している活動がある』人の割合は62.3%となっている。具体的には、「趣味・楽しみのための活動」37.1%、「体操、ウォーキング、水泳などの健康づくり・スポーツ活動」28.4%、「習い事や講座などの教養・学習活動」11.3%の順となっている。

※『参加している活動がある』 = 100% - 「特にしていない」 - 「無回答」

(6) 今後参加したい余暇活動・社会参加活動



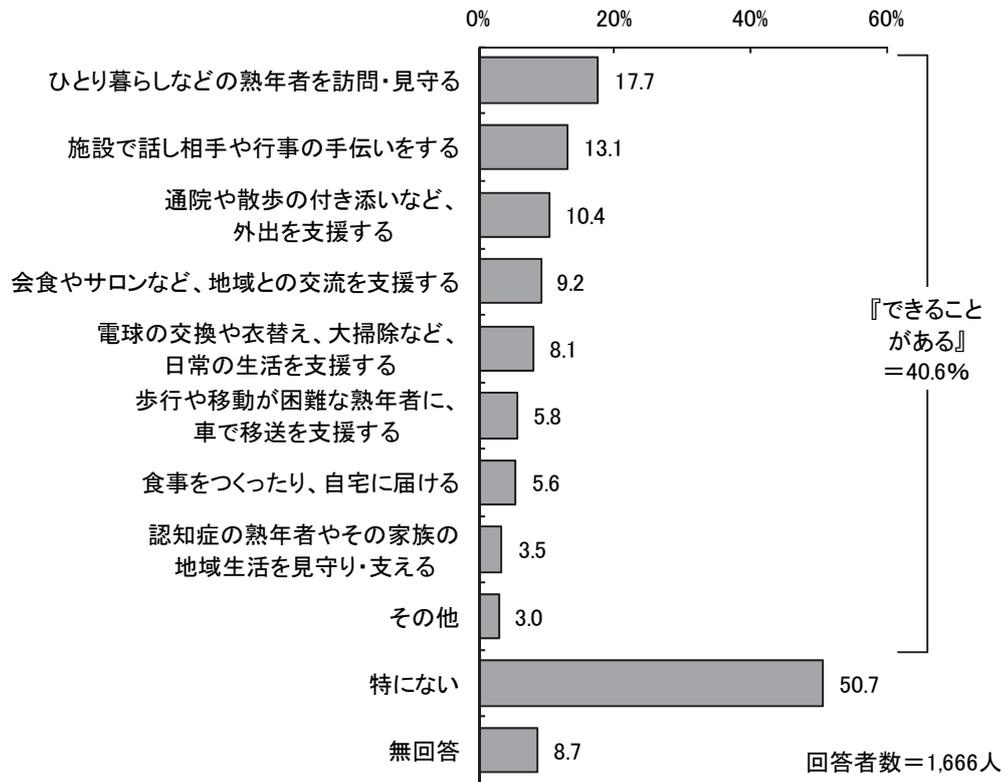
余暇活動・社会参加活動について、『参加したい活動がある』人の割合は69.3%と約7割であり、現在の活動状況に比べて7.0ポイント高くなっている。

具体的には、「趣味・楽しみのための活動」が47.5%、「体操、ウォーキング、水泳などの健康づくり・スポーツ活動」が35.4%、「習い事や講座などの教養・学習活動」が19.3%などとなっている。

※『参加したい活動がある』 = 100% - 「特にしたい活動はない」 - 「活動できない」 - 「無回答」

(7)地域の支え手としてできること

地域の支え手としてできることをみると、40.6%が『できることがある』と回答している。具体的には、「ひとり暮らしなどの熟年者を訪問・見守る」が17.7%、「施設で話し相手や行事の手伝いをする」が13.1%、「通院や散歩の付き添いなど、外出を支援する」が10.4%などとなっている。



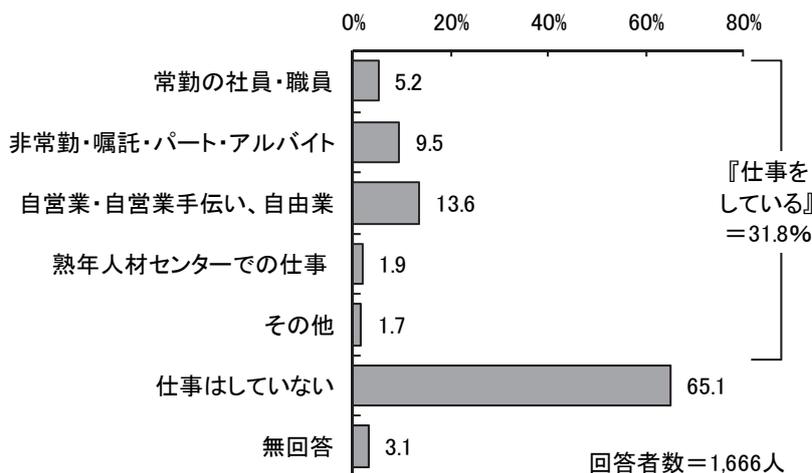
※『できることがある』 = 100% - 「特にない」 - 「無回答」

(8)現在の就労状況

現在の就労状況をみると、『仕事をしている』人の割合は31.8%となっている。就労形態は「自営業・自営業手伝い、自由業」がもっとも高い13.6%、次いで「非常勤・嘱託・パート・アルバイト」が9.5%、「常勤の社員・職員」が5.2%となっている。

性別にみると、『仕事をしている』割合は、男性が42.7%、女性が23.0%となっている。

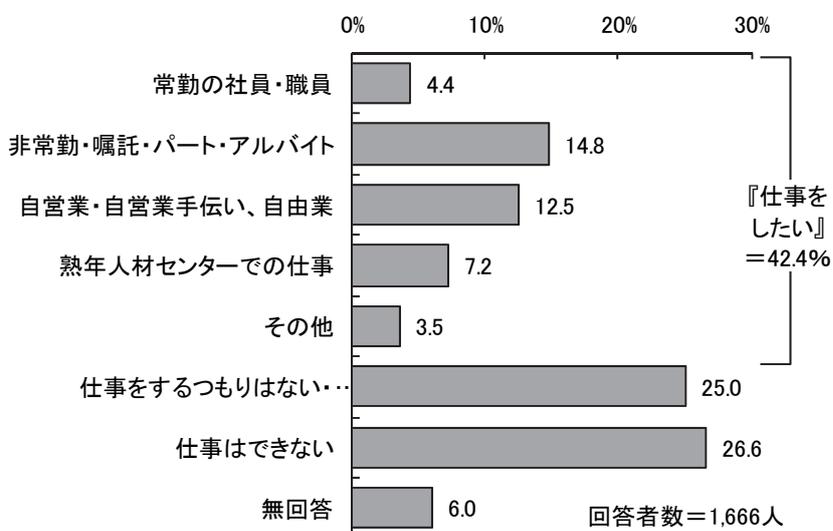
年齢別にみると、年齢層が低いほど『仕事をしている』割合は高く、65～69歳は4割台、70～74歳は3割台となっている。



※『仕事をしている』=100%－「仕事はしていない」－「無回答」

(9)今後の就労意向

今後の就労意向をみると、42.4%が『仕事をしたい』と回答しており、現在の就労状況に比べて10.6ポイント高くなっている。希望する就労形態は「非常勤・嘱託・パート・アルバイト」14.8%がもっとも高く、「自営業・自営業手伝い、自由業」12.5%、「熟年人材センターでの仕事」7.2%の順となっている。



※『仕事をしたい』=100%－「仕事をするつもりはない・する必要がない」－「仕事はできない」－「無回答」

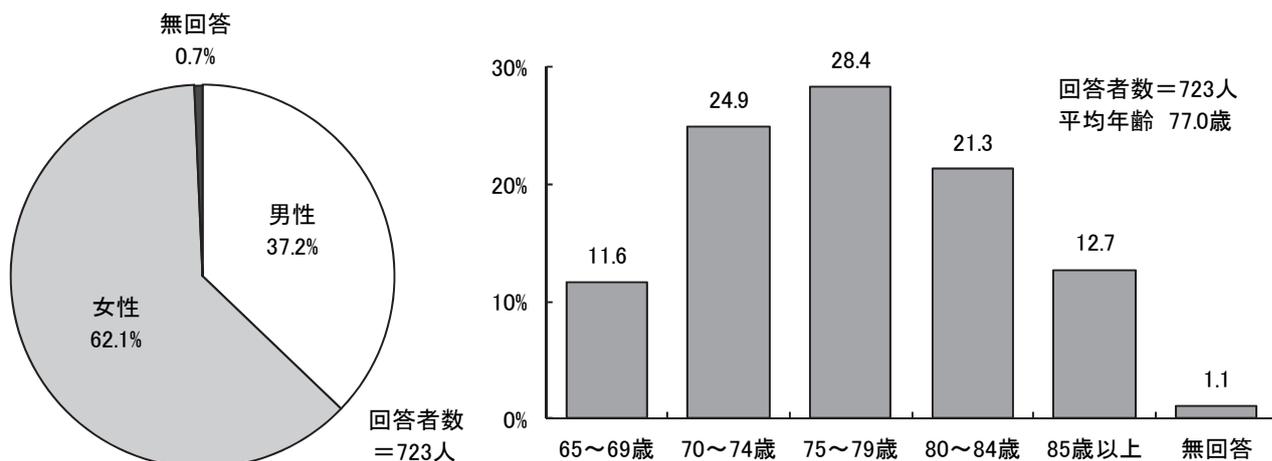
2. 介護予防に関する調査

(1) 性別、現在の満年齢

調査回答者は、「あて名のご本人」87.1%、「家族」5.1%などとなっている。

性別は、「男性」37.2%に対して「女性」62.1%と、女性のほうが24.9ポイント高い。

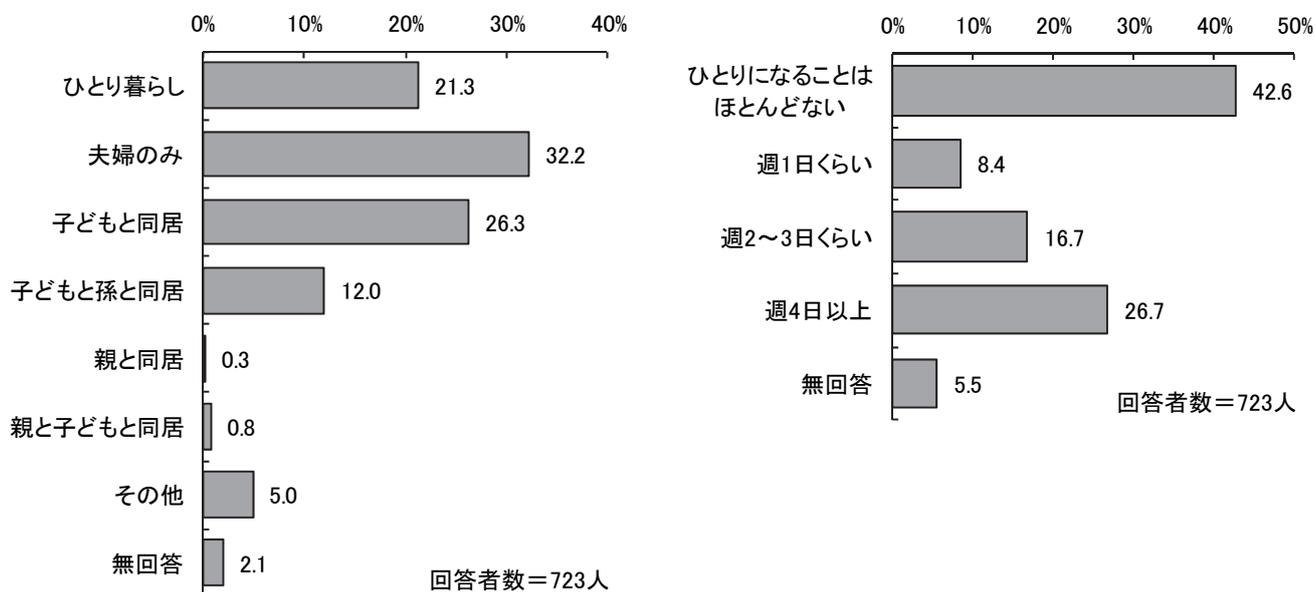
年齢は、「75～79歳」28.4%、「70～74歳」24.9%、「80～84歳」21.3%の順であり、平均年齢は77.0歳となっている。



(2) 世帯構成、日中独居の状況

世帯構成は、「夫婦のみ」32.2%、「子どもと同居」26.3%に次いで、「ひとり暮らし」が21.3%となっている。

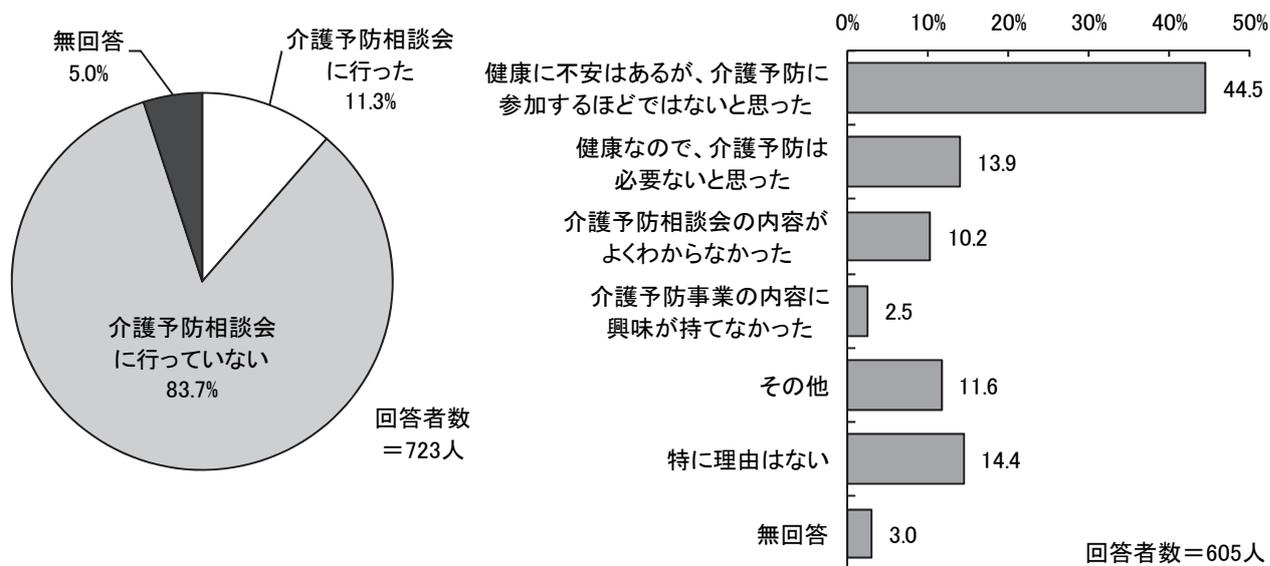
日中独居の状況を見ると、「ひとりになることはほとんどない」は42.6%と半数を下回り、26.7%と約4人に1人が「週4日以上」ひとりでいると回答している。



(3) 介護予防相談会の参加状況、行かなかった理由

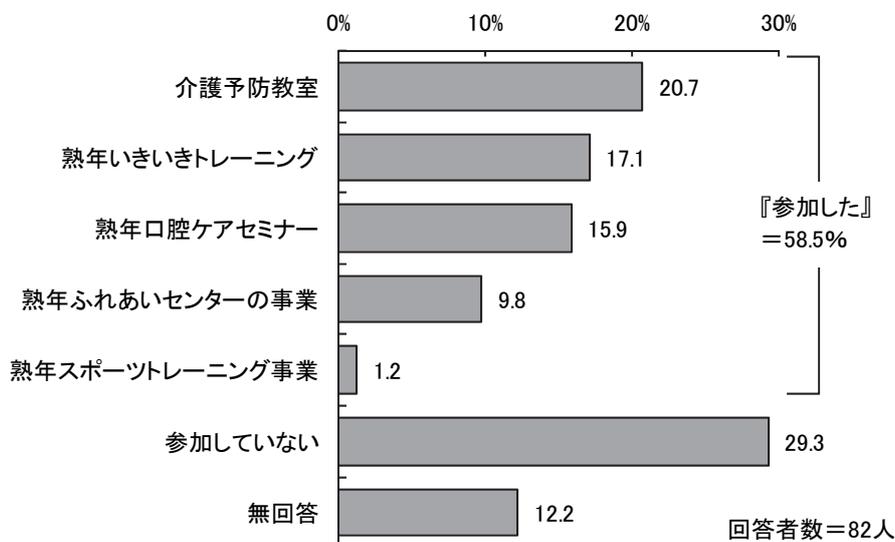
介護予防相談会の参加状況等をみると、「介護予防相談会に行った」は 11.3%であり、「介護予防相談会に行っていない」が 83.7%を占める。

介護予防相談会に行かなかった理由は、「健康に不安はあるが、介護予防に参加するほどではないと思った」44.5%がもっとも高く、「健康なので、介護予防は必要ないと思った」13.9%、「介護予防相談会の内容がよくわからなかった」10.2%の順となっている。



(4) 介護予防事業の参加状況

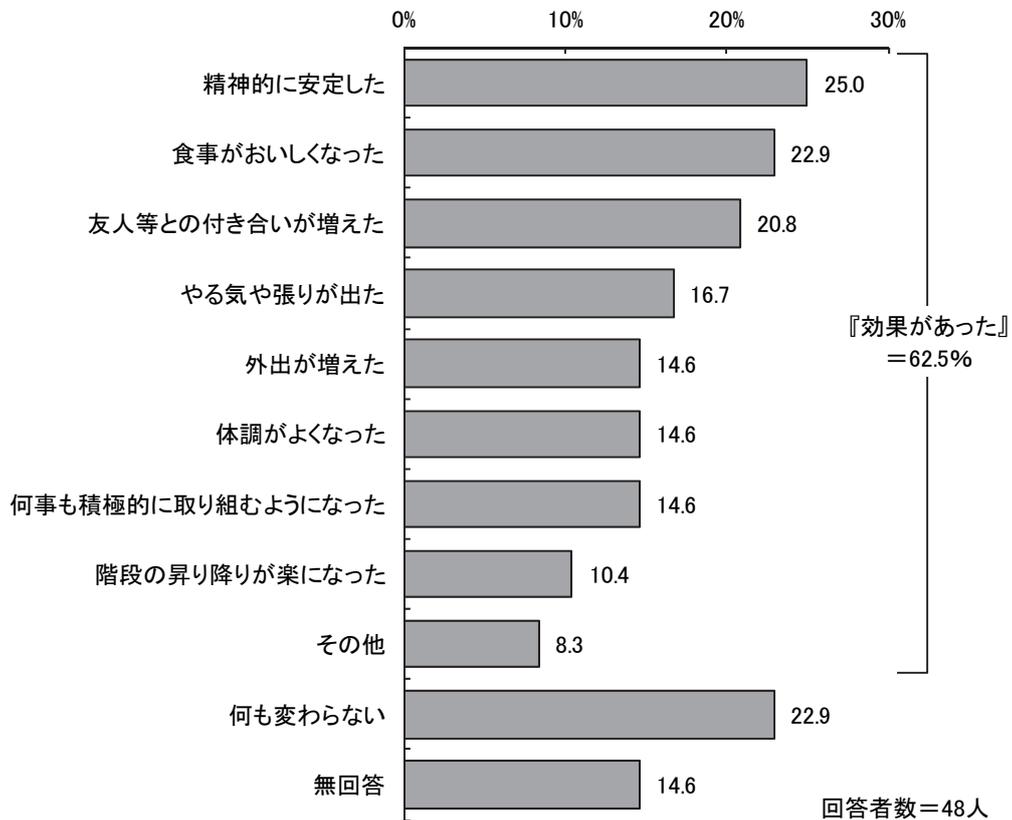
参加した介護予防事業をみると、『参加した』人の割合は 58.5%となっている。参加した事業は、「介護予防教室」が 20.7%、「熟年いきいきトレーニング」が 17.1%、「熟年口腔ケアセミナー」が 15.9%、「熟年ふれあいセンターの事業」が 9.8%、「熟年スポーツトレーニング事業」が 1.2%となっている。



※ 『参加した』 = 100% - 「参加していない」 - 「無回答」

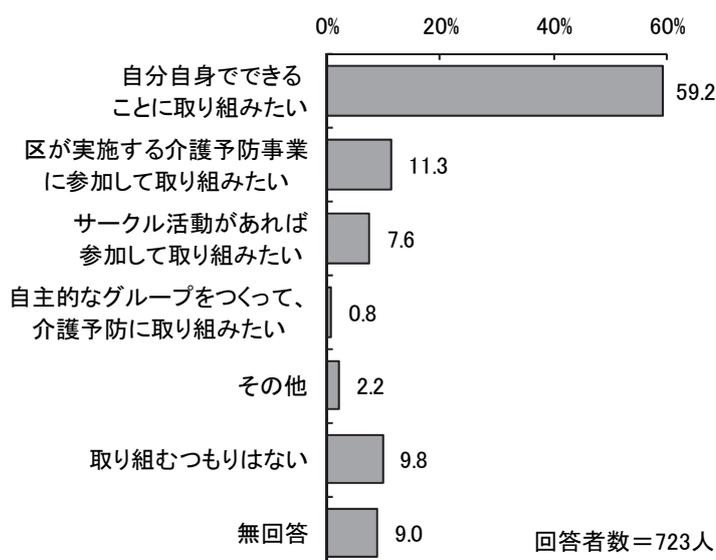
(5) 介護予防事業に参加してよかったこと

介護予防事業に参加した人に、参加してよかったことをたずねたところ、62.5%が『効果があった』と回答している。具体的には、「精神的に安定した」25.0%、「食事がおいしくなった」22.9%、「友人等との付き合いが増えた」20.8%などとなっている。



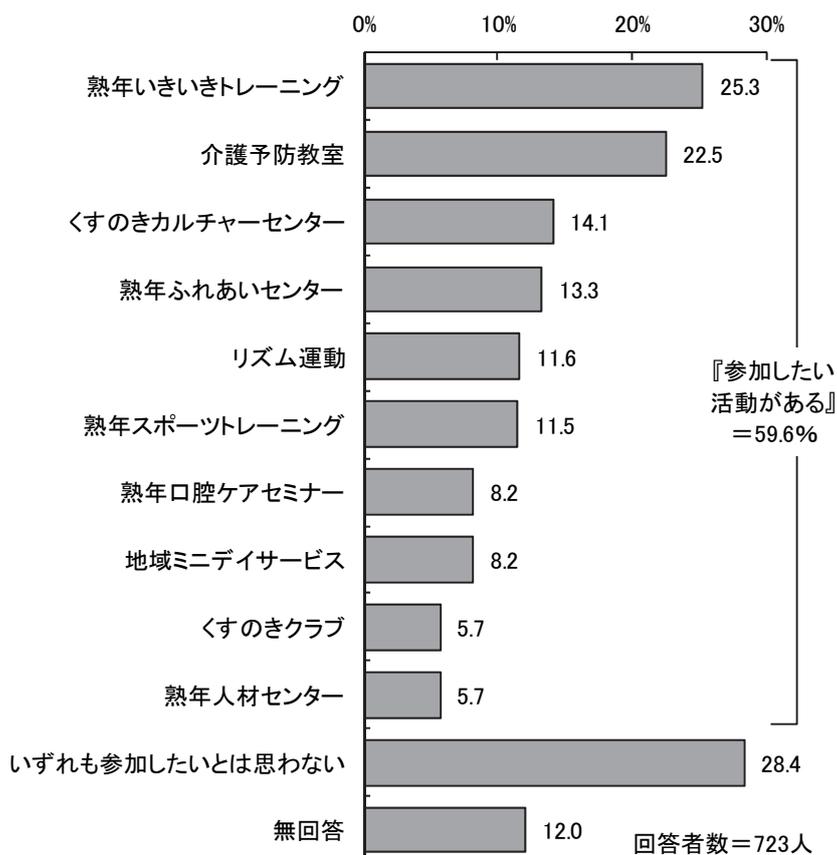
※『効果があった』 = 100% - 「何も変わらない」 - 「無回答」

(6) 今後の介護予防の取り組み方の希望



今後の介護予防の取り組み方の希望は、「自分自身でできることに取り組みたい」が59.2%と約6割を占め、「区が実施する介護予防事業に参加して取り組みたい」は11.3%、「サークル活動があれば参加して取り組みたい」は7.6%、「自主的なグループをつくって、介護予防に取り組みたい」は0.8%となっている。

(7) 今後取り組みたい活動

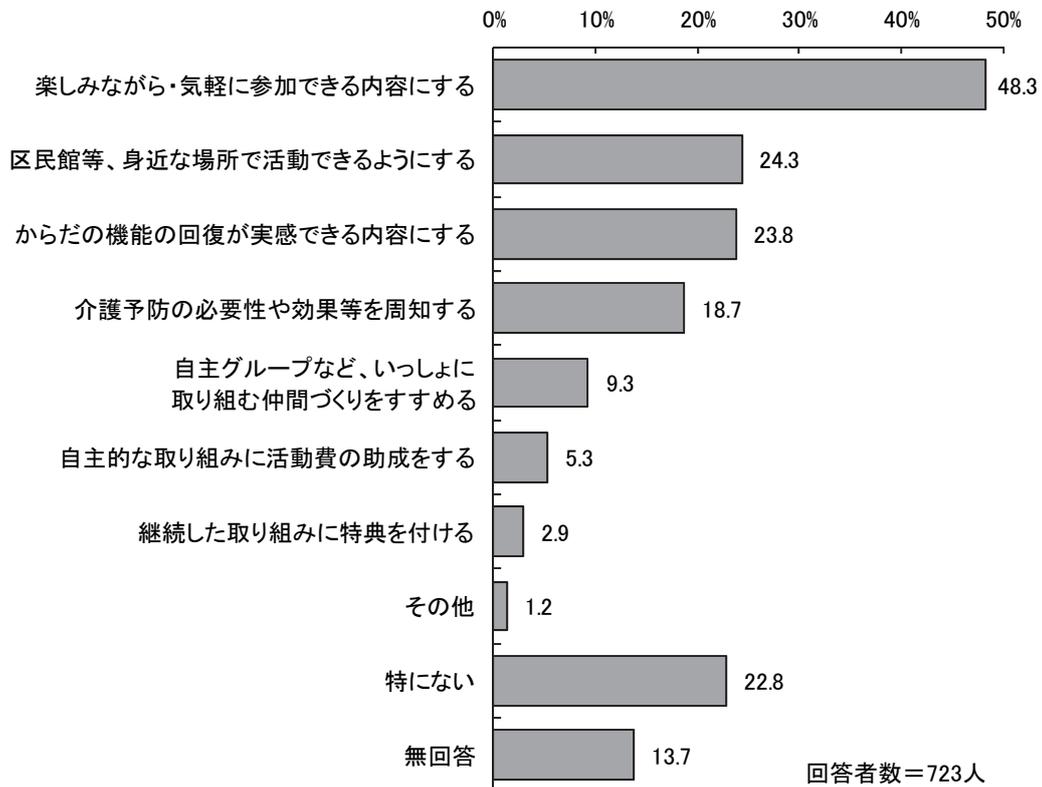


今後取り組みたい活動をみると、『参加したい活動がある』は59.6%となっている。参加したい活動は、「熟年いきいきトレーニング」25.3%、「介護予防教室」22.5%、「くすのきカルチャーセンター」14.1%、「熟年ふれあいセンター」13.3%、「リズム運動」11.6%の順となっている。

※『参加したい活動がある』=100%－「いずれも参加したいとは思わない」－「無回答」

(8)介護予防に継続して取り組むために必要な環境・条件

介護予防に継続して取り組むために必要な環境・条件は、「楽しみながら・気軽に参加できる内容にする」48.3%がもっとも高く、次いで「区民館等、身近な場所で活動できるようにする」24.3%、「からだの機能の回復が実感できる内容にする」23.8%の順となっている。

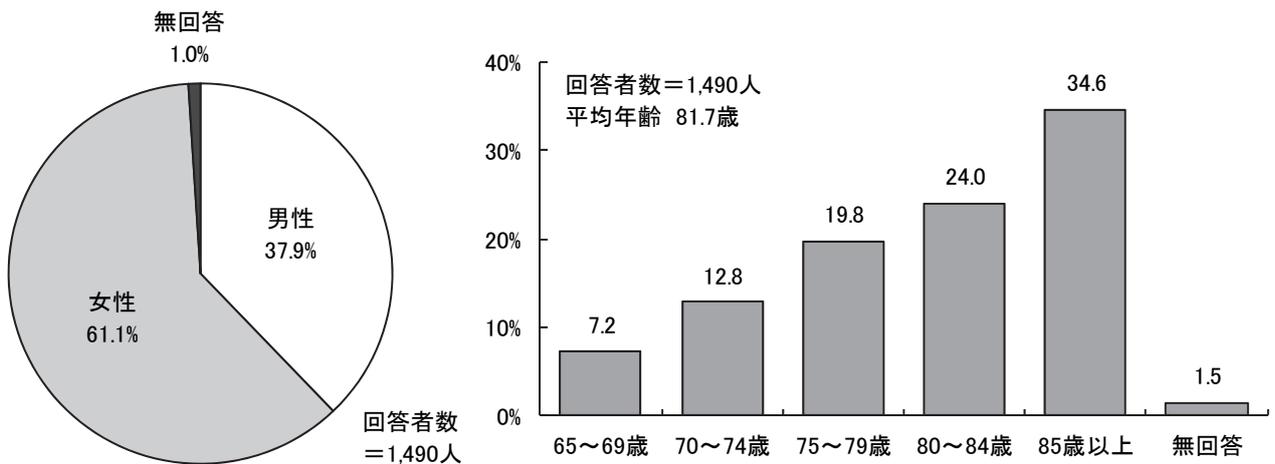


3. 介護保険サービス利用に関する調査

(1) 性別、現在の満年齢

調査回答者は、「あて名のご本人」は 57.7% であり、「家族」が 36.2% となっている。
性別は、「男性」37.9% に対して、「女性」が 61.1% を占める。

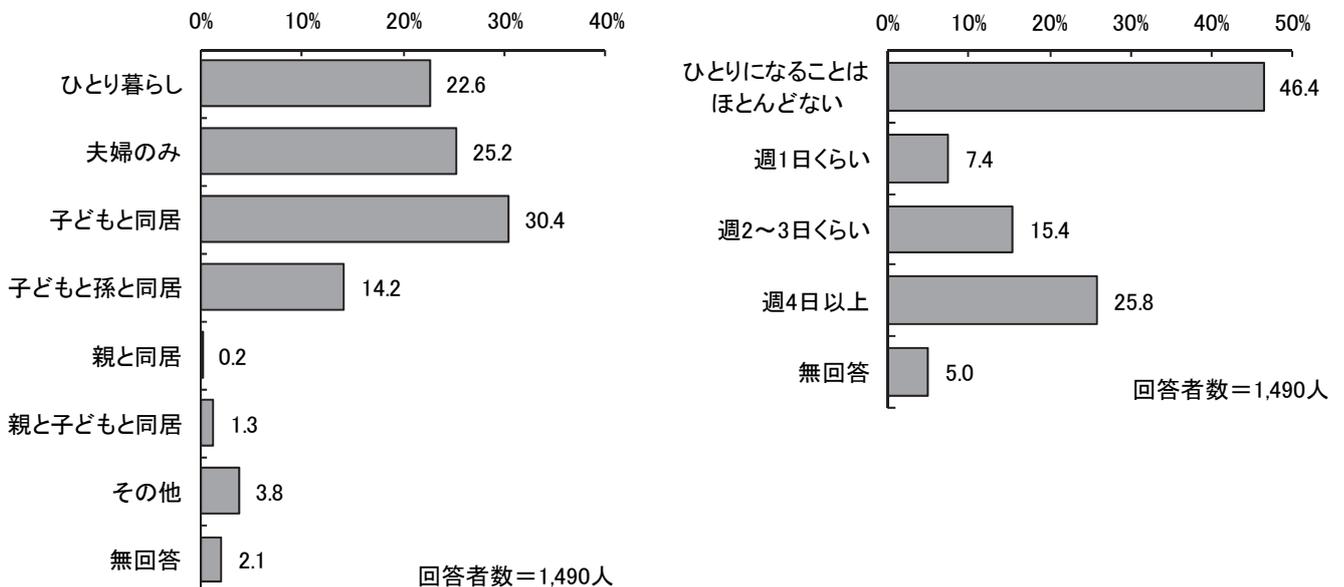
年齢は、年齢層が高いほど割合が高く、「85 歳以上」が 34.6% を占める。平均年齢は 81.7 歳となっている。



(2) 世帯構成、日中独居の状況

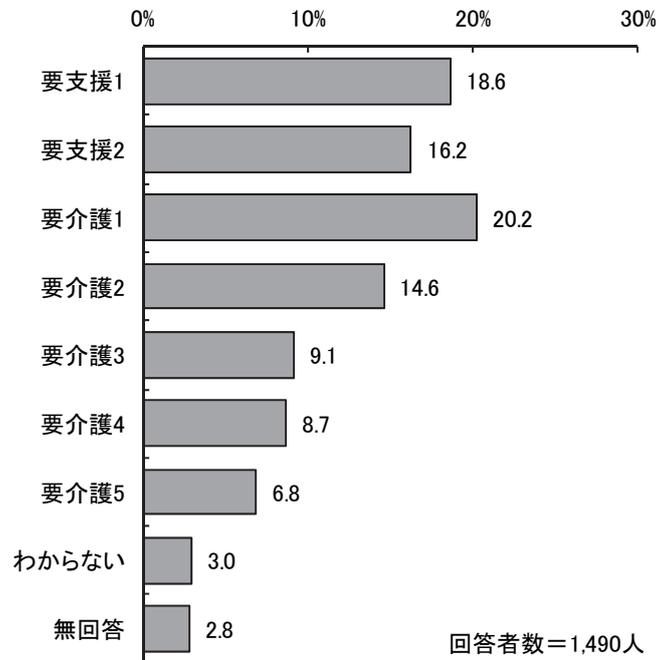
世帯構成は、「子どもと同居」30.4% がもっとも高く、次いで「夫婦のみ」25.2%、「ひとり暮らし」22.6% の順となっている。

日中独居の状況をみると、「ひとりになることはほとんどない」は 46.4% と 5 割を下回り、25.8% と約 4 人に 1 人が「週 4 日以上」ひとりしていると回答している。



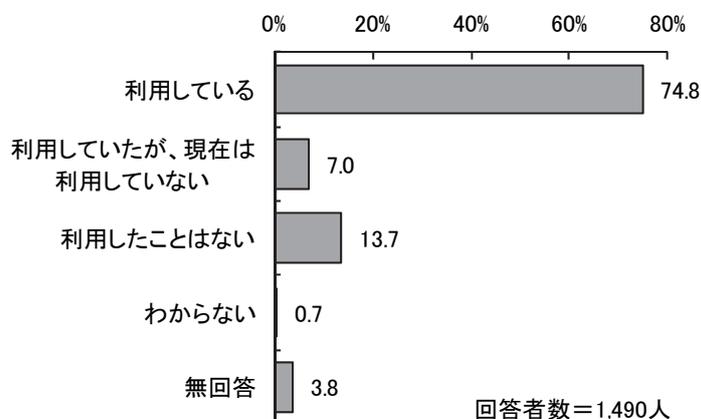
(3)要介護度

要介護度は、「要介護 1」 20.2%、「要支援 1」 18.6%、「要支援 2」 16.2%の順となっている。「要支援 1」と「要支援 2」をあわせた要支援は 34.8%、「要介護 1」から「要介護 2」は 34.8%、「要介護 3」から「要介護 5」は 24.6%となっている。



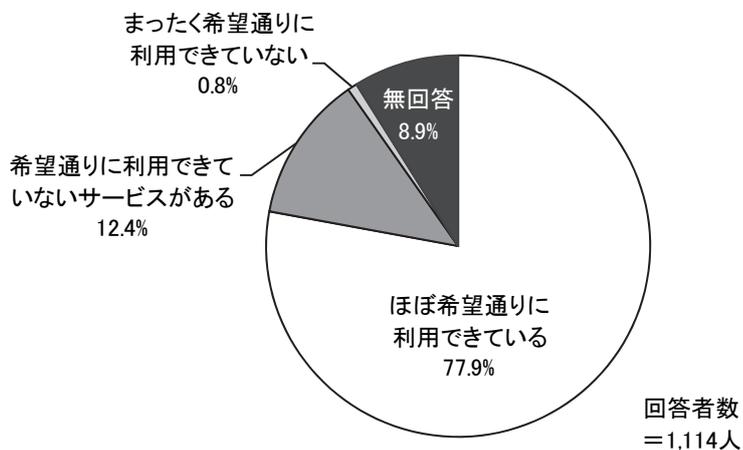
(4) 介護保険サービスの利用状況

介護保険サービスの利用状況を見ると、「利用している」は 74.8%であり、「利用したことはない」13.7%、「利用していたが、現在は利用していない」7.0%となっている。



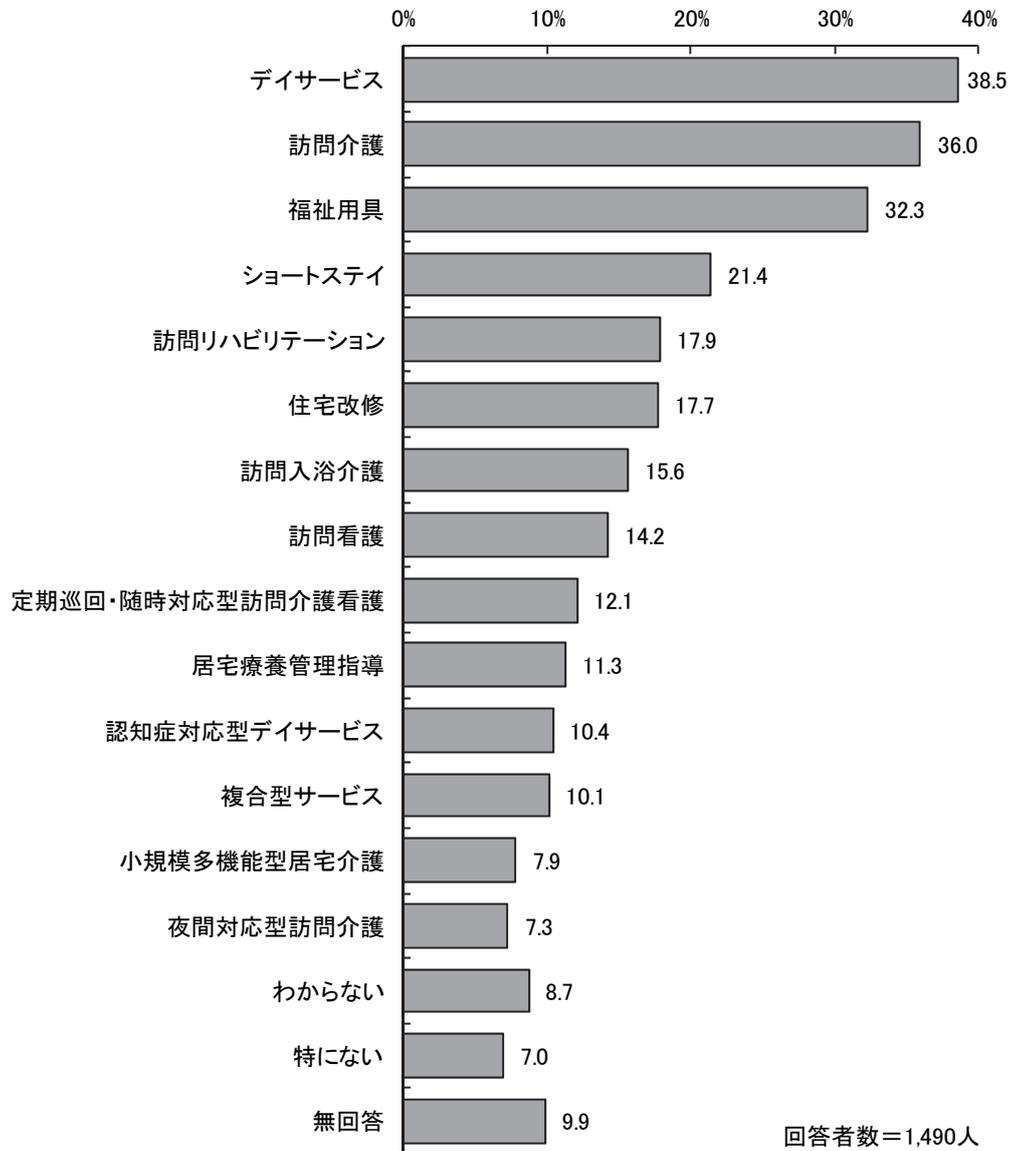
(5) 介護保険サービス利用の満足度

介護保険サービスを利用している人に満足度をたずねたところ、「ほぼ希望通りに利用できている」が 77.9%を占める一方、「希望通りに利用できていないサービスがある」は 12.4%、「まったく希望通りに利用できていない」は 0.8%となっている。



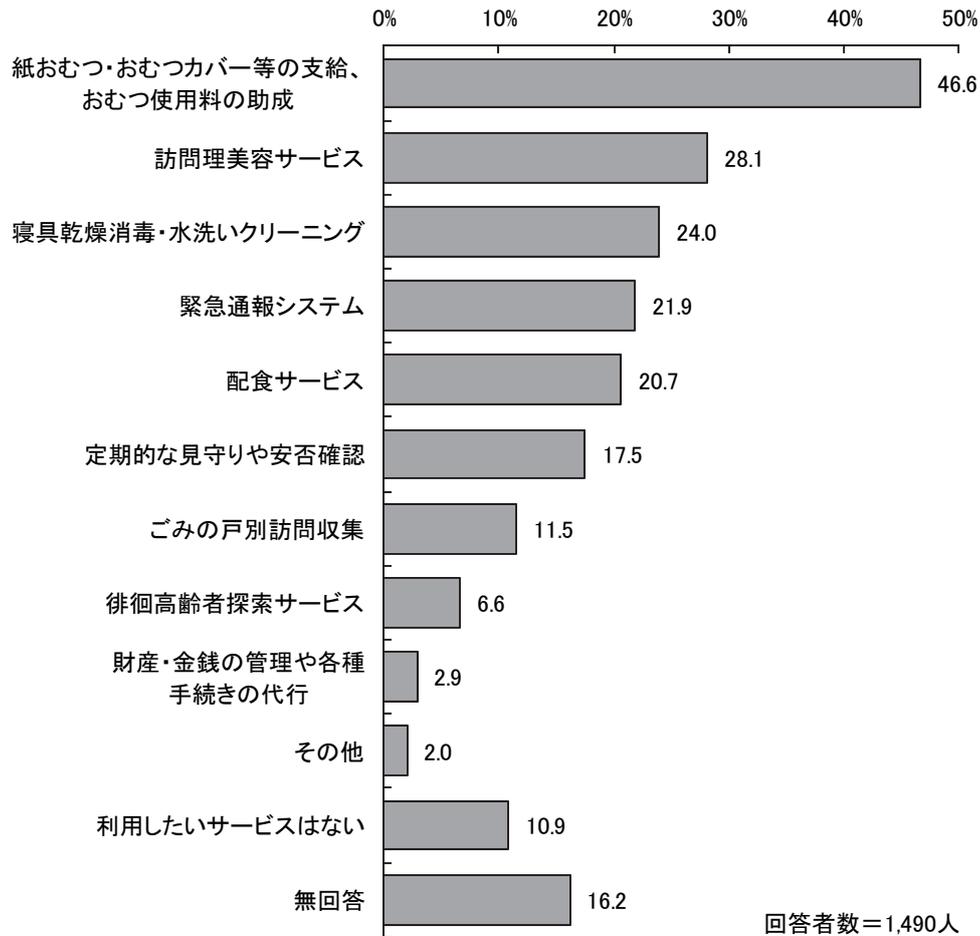
(6) 今後利用したい介護保険サービス

今後利用したい介護保険サービスは、「デイサービス」38.5%、「訪問介護」36.0%、「福祉用具」32.3%が上位3位となっている。次いで、「ショートステイ」21.4%、「訪問リハビリテーション」17.9%が続いている。

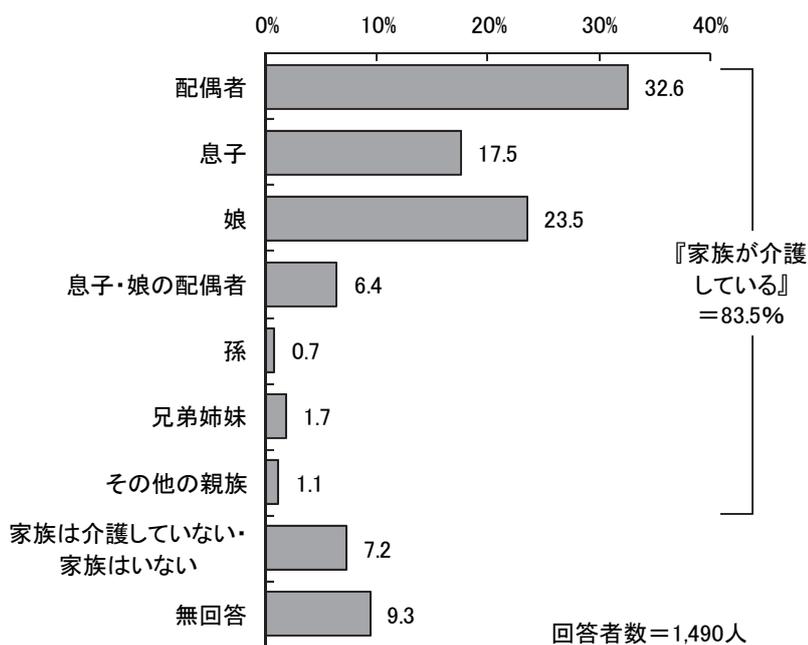


(7) 今後利用したい介護保険外サービス

今後利用したい介護保険外サービスは、「紙おむつ・おむつカバー等の支給、おむつ使用料の助成」46.6%がもっとも高い。次いで、「訪問理美容サービス」28.1%、「寝具乾燥消毒・水洗いクリーニング」24.0%、「緊急通報システム」21.9%、「配食サービス」20.7%が2割台で続いている。



(8) 家族介護の状況

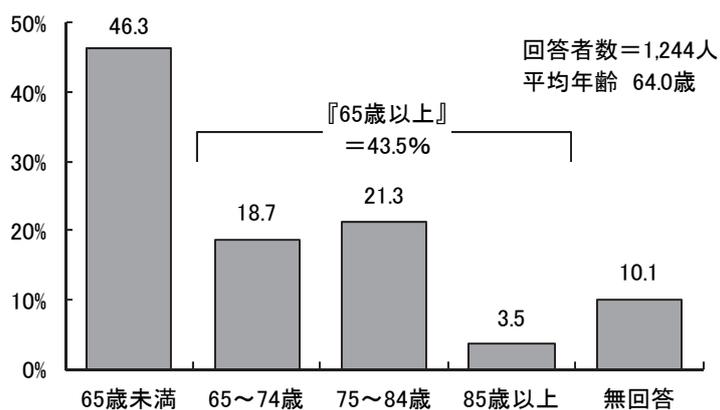


家族介護の状況を見ると、『家族が介護している』は83.5%を占める。具体的な介護者は、「配偶者」32.6%、「娘」23.5%、「息子」17.5%、「息子・娘の配偶者」6.4%の順となっている。

※『家族が介護している』 = 「配偶者」 + 「息子」 + 「娘」 + 「息子・娘の配偶者」 + 「孫」 + 「兄弟姉妹」 + 「その他の親族」

(9) 主な介護者の年齢

主な介護者の年齢は、「65歳未満」46.2%に次いで、「75～84歳」21.3%、「65～74歳」18.7%の順となっている。『65歳以上』が43.5%を占めており、平均年齢は64.0歳となっている。

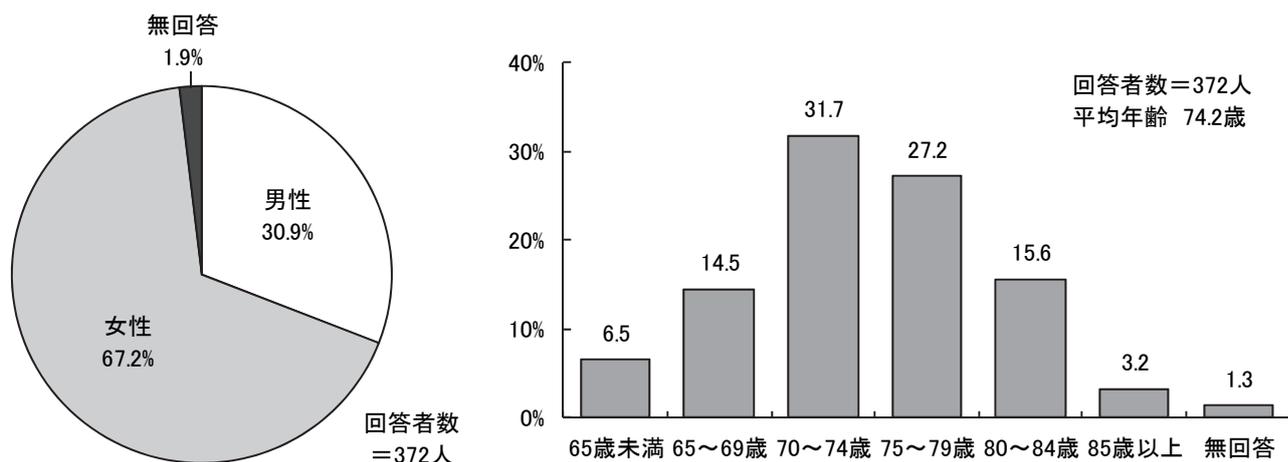


4. 熟年者のお元気度チェック調査

(1) 性別、現在の満年齢

性別は「男性」30.9%、「女性」67.2%と、女性が男性の2倍以上を占める。

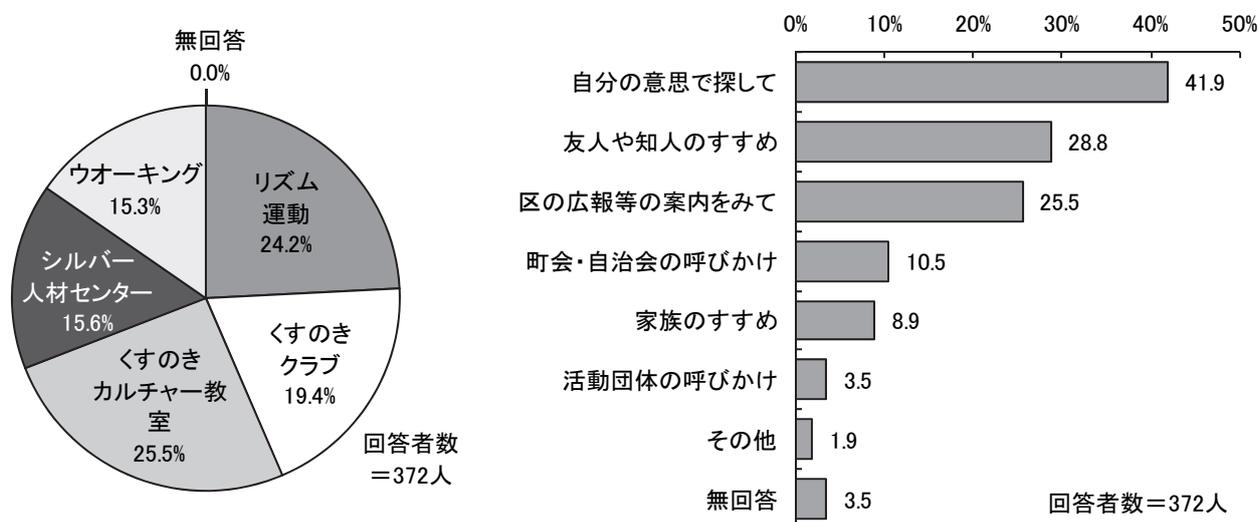
年齢は、「70～74歳」31.7%、「75～79歳」27.2%、「80～84歳」15.6%の順に高く、平均年齢は74.2歳となっている。



(2) 参加している地域活動、活動に参加したきっかけ

参加している地域活動は、「くすのきカルチャー教室」が25.5%、「リズム運動」が24.2%、「くすのきクラブ」が19.4%、「シルバー人材センター」が15.6%、「ウォーキング」が15.3%となっている。

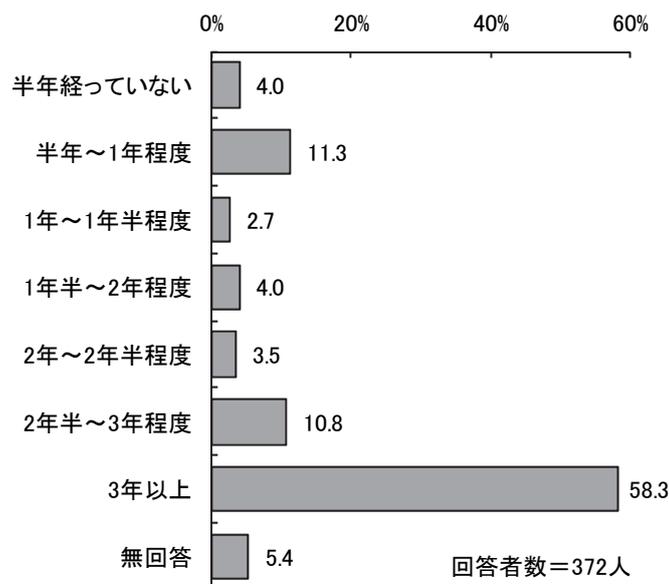
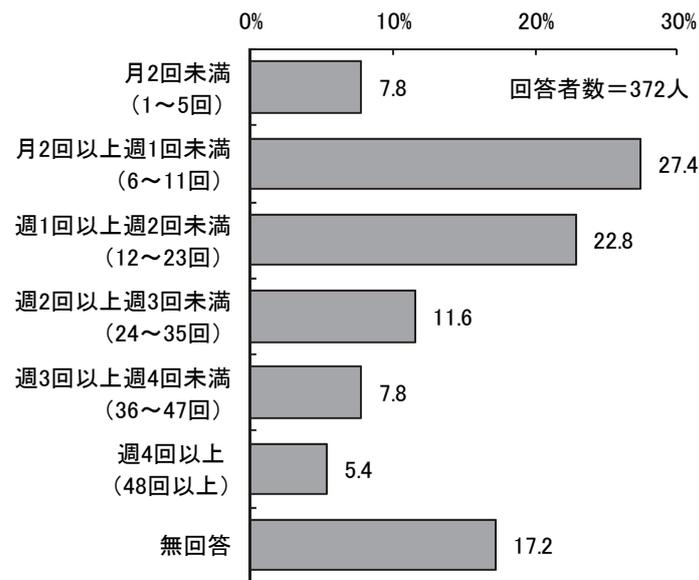
活動に参加したきっかけは、「自分の意思で探して」41.9%がもっとも高く、次いで「友人や知人のすすめ」28.8%、「区の広報等の案内をみて」25.5%の順となっている。



(3)活動への参加回数、活動年数

活動への参加回数は、「月2回以上週1回未満（6～11回）」27.4%、「週1回以上週2回未満（12～23回）」22.8%、「週2回以上週3回未満（24～35回）」11.6%の順であり、平均18.6回となっている。

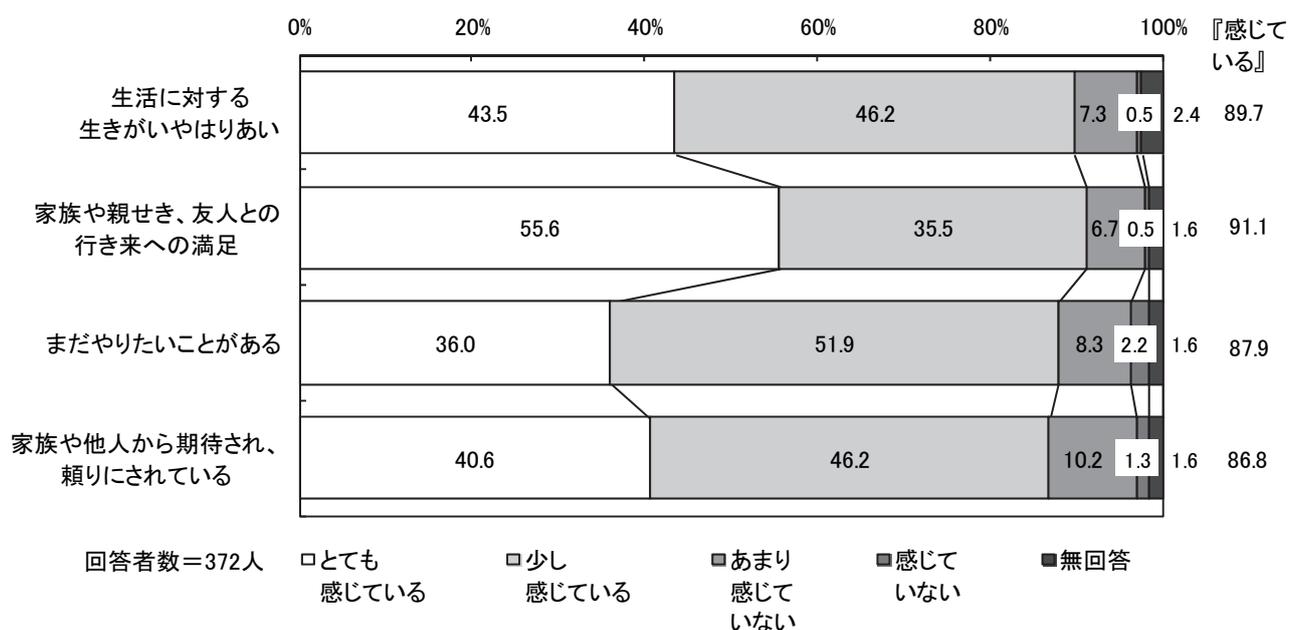
活動年数は、「3年以上」が58.3%と6割弱を占める。このほか、「半年～1年程度」が11.3%、「2年半～3年程度」が10.8%となっている。



(4) 生きがいの状況

「とても感じている」と「少し感じている」をあわせた『感じている』割合をみると、“生活に対する生きがいやほりあい”は89.7%、“家族や親せき、友人との行き来への満足”は91.1%、“まだやりたいことがある”は87.9%、“家族や他人から期待され、頼りにされている”が86.8%と、いずれも8割以上となっている。

特に、“家族や親せき、友人との行き来への満足”は、「とても感じている」が55.6%と過半数を占めている。

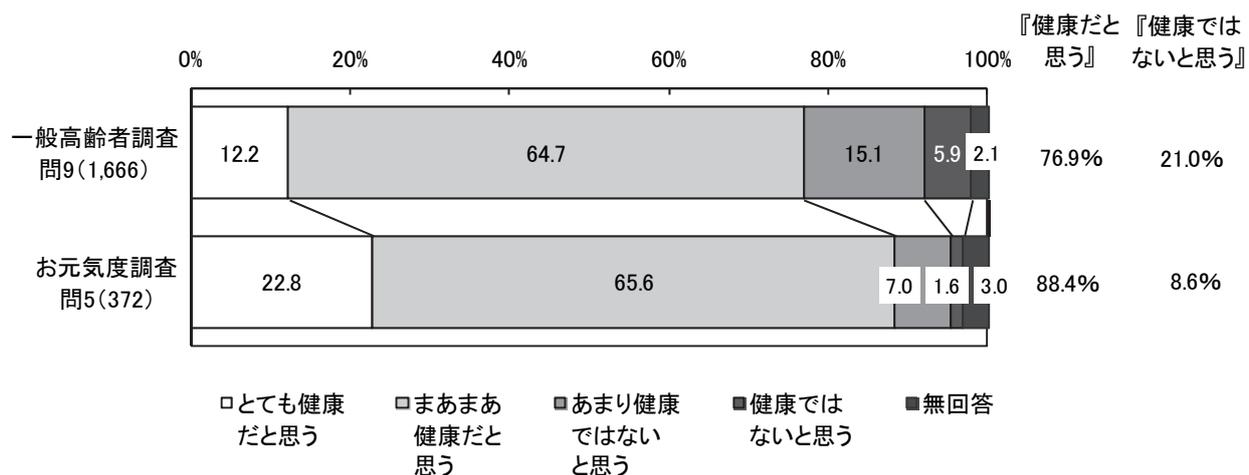


※『感じている』 = 「とても感じている」 + 「少し感じている」

5. 区民向け4調査間の比較結果

(1)健康状態

「とても健康だと思う」割合は、【一般高齢者調査】の12.2%に対し、【お元気度調査】では22.8%を占める。『健康だと思う』と回答した人の割合は、【一般高齢者調査】が76.9%、【お元気度調査】が88.4%と、【お元気度調査】のほうが11.5ポイント高い。



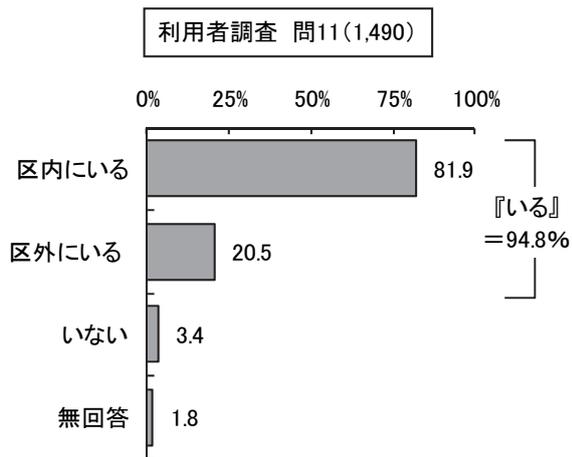
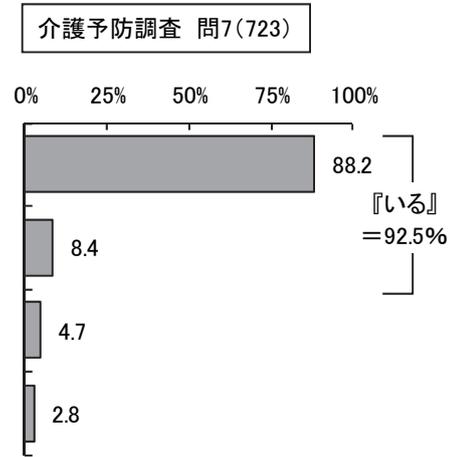
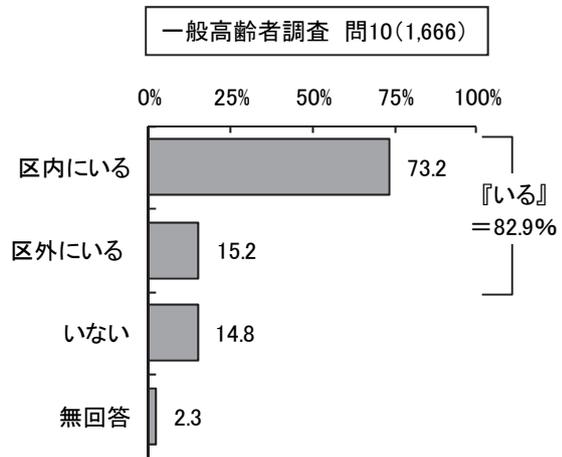
※ () は回答者数

※ 『健康だと思う』 = 「とても健康だと思う」 + 「まあまあ健康だと思う」

※ 『健康ではないと思う』 = 「あまり健康ではないと思う」 + 「健康ではないと思う」

(2) かかりつけ医の有無

かかりつけ医が『いる』割合は、【一般高齢者調査】は8割台、【介護予防調査】と【利用者調査】は9割台となっている。

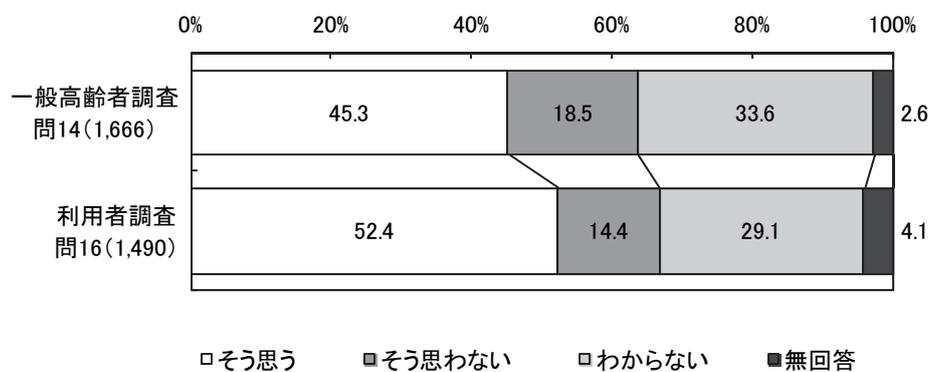


※ () は回答者数

※ 『いる』 = 100% - 「いない」 - 「無回答」

(3) 在宅療養に対する意向

「そう思う」（在宅療養をしたいと思う）割合は、【一般高齢者調査】の45.3%、【利用者調査】の52.4%と、利用者調査の方が在宅療養意向が高くなっている。



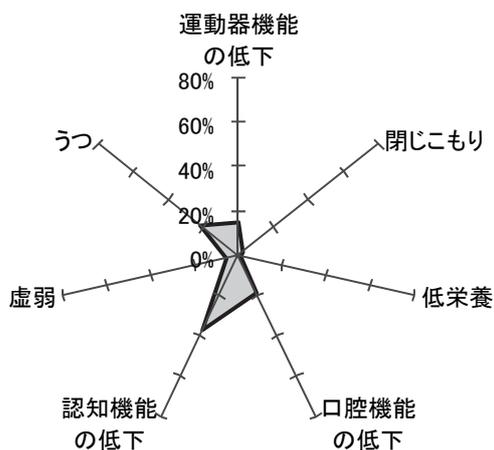
※（ ）は回答者数

(4)生活機能の評価

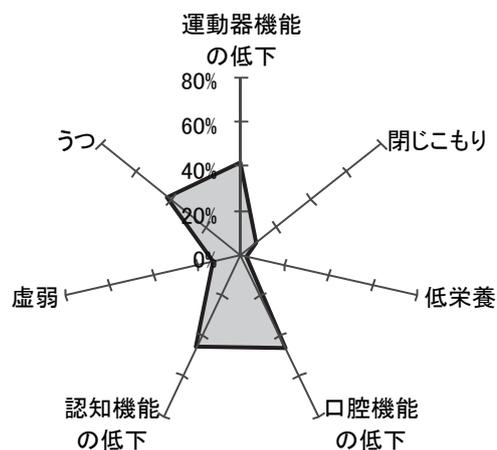
「日常生活機能の状況について」の項の回答結果をもとに、生活機能の評価を行った。生活機能が低下している可能性がある(該当する)人の割合(下図のグレーの網掛け部分)をみると、【お元気度調査】は閉じこもりを除くすべての項目で【一般高齢者調査】を下回る結果となっており、該当者の割合は、【お元気度調査】、【一般高齢者調査】、【介護予防調査】、【利用者調査】の順に高くなっている。

項目別にみると、認知機能の低下は介護の必要性の低い【お元気度調査】と【一般高齢者調査】にも該当者が3割台と、他に比べて高い割合となっている。一方、低栄養は【利用者調査】においても1割を下回っており、他に比べて該当者の割合が非常に低い項目である。

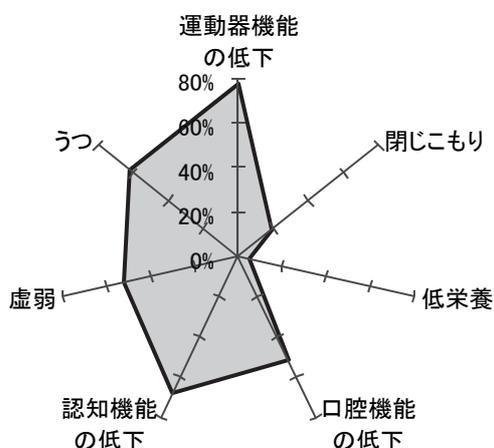
一般高齢者調査 問20-問27(1,666)



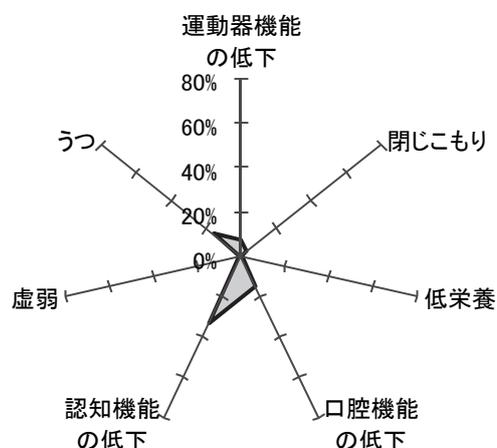
介護予防調査 問10(723)



利用者調査 問17-問27(1,037)



お元気度調査 問8(372)



※各項目の「該当」の割合を掲載している

	一般高齢者調査 問 20－問 27			
	回答者数 (人)	該当	非該当	無回答
運動器機能の低下	1,666	15.2	81.9	2.9
閉じこもり	1,666	2.5	95.7	1.8
低栄養	1,666	1.0	94.2	4.8
口腔機能の低下	1,666	18.7	79.5	1.8
認知機能の低下	1,666	37.5	59.5	3.1
虚弱(全般的な機能低下)	1,666	5.6	82.5	11.9
うつ	1,666	22.0	71.3	6.7

	介護予防調査 問 10			
	回答者数 (人)	該当	非該当	無回答
	723	41.8	51.5	6.8
	723	9.0	89.9	1.1
	723	2.8	86.9	10.4
	723	46.3	50.1	3.6
	723	45.6	51.9	2.5
	723	12.4	66.5	21.0
	723	41.8	51.5	6.8

	利用者調査 問 17－問 27			
	回答者数 (人)	該当	非該当	無回答
運動器機能の低下	1,037	77.2	16.0	6.8
閉じこもり	1,037	18.9	77.4	3.7
低栄養	1,037	4.9	82.2	12.9
口腔機能の低下	1,037	51.4	43.9	4.7
認知機能の低下	1,037	67.9	27.0	5.1
虚弱(全般的な機能低下)	1,037	52.3	22.3	25.5
うつ	1,037	61.9	28.1	10.0

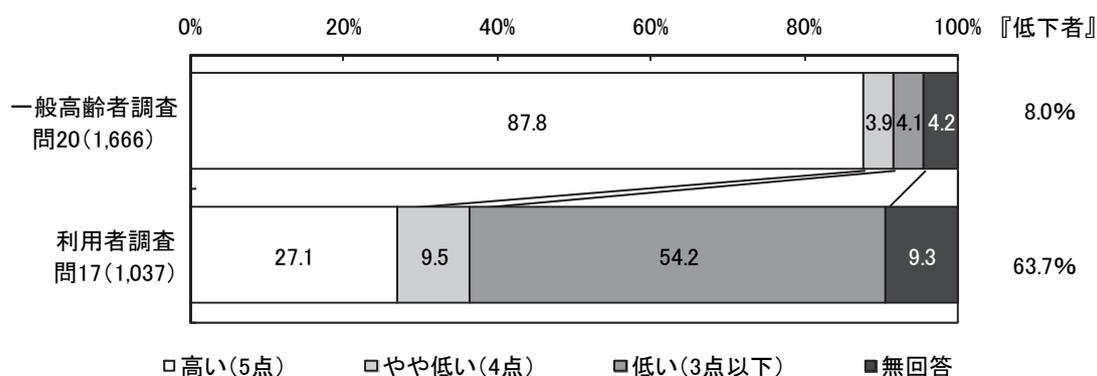
	お元気度調査 問 8			
	回答者数 (人)	該当	非該当	無回答
	372	7.0	87.1	5.9
	372	3.2	95.2	1.6
	372	0.5	94.1	5.4
	372	15.3	79.6	5.1
	372	33.6	63.4	3.0
	372	0.8	83.6	15.6
	372	15.9	78.0	6.2

(5) 日常生活の自立度の評価

「日常生活機能の状況について」の項の回答結果をもとに、日常生活の自立度の評価を行った。手段的日常生活動作（IADL）の自立度が「高い（5点）」人の割合は、【一般高齢者調査】の8割台に対して、【利用者調査】では2割台であり、『低下者』の割合は、【一般高齢者調査】が8.0%、【利用者調査】が63.7%となっている。

日常生活動作（ADL）の自立度が「完全自立（100点）」の人の割合は、【一般高齢者調査】の7割台、【利用者調査】では1割台であり、『低下者』の割合は、【一般高齢者調査】が19.8%、【利用者調査】が74.6%となっている。

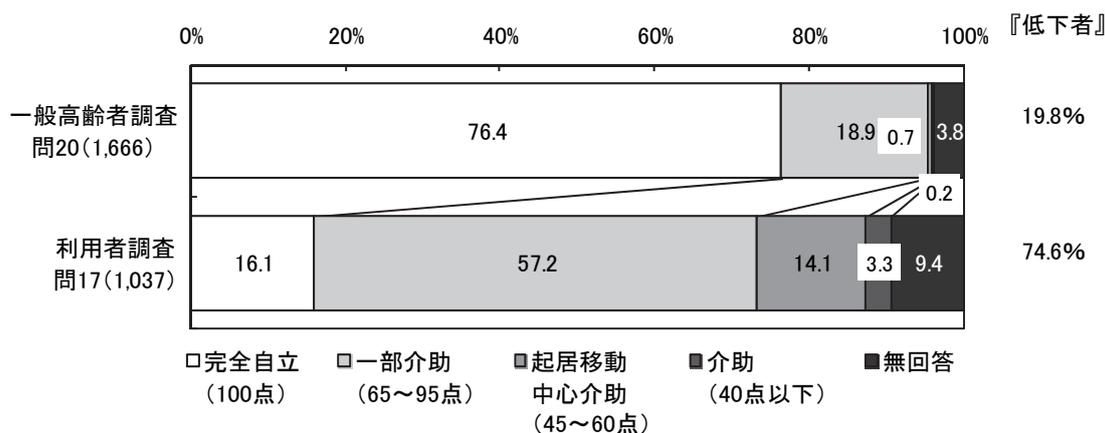
手段的日常生活動作(IADL)の自立度の評価



※（ ）は回答者数

※『低下者』＝「やや低い（4点）」＋「低い（3点以下）」

日常生活動作(ADL)の自立度の評価



※（ ）は回答者数

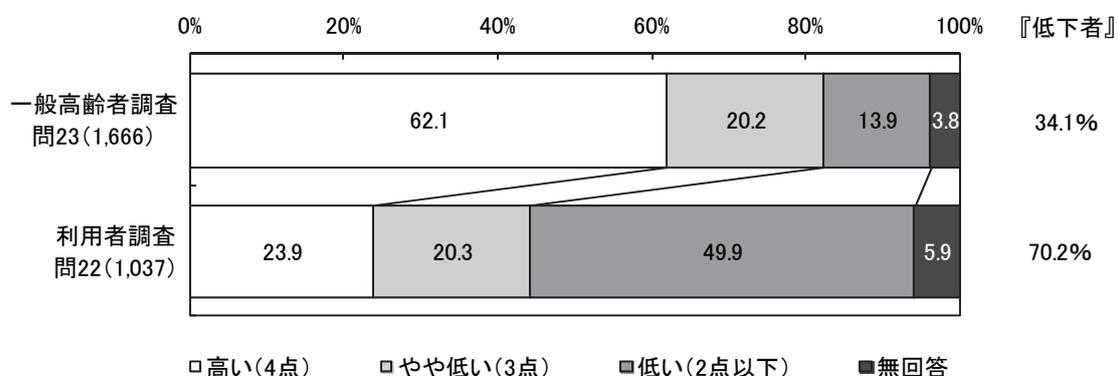
※『低下者』＝「一部介助（65～95点）」＋「起居移動中心介助（45～60点）」＋「介助（40点以下）」

(6) 社会参加の評価

「日常生活機能の状況について」の項の回答結果をもとに、社会参加に関する評価を行った。知的能動性が「高い(4点)」人の割合は、【一般高齢者調査】の6割台に対して、【利用者調査】では2割台であり、『低下者』の割合は、【一般高齢者調査】が34.1%、【利用者調査】が70.2%となっている。

社会的役割が「高い(4点)」人の割合は、【一般高齢者調査】の4割台、【利用者調査】では1割未満であり、『低下者』の割合は、【一般高齢者調査】が52.2%、【利用者調査】では86.6%に達する。

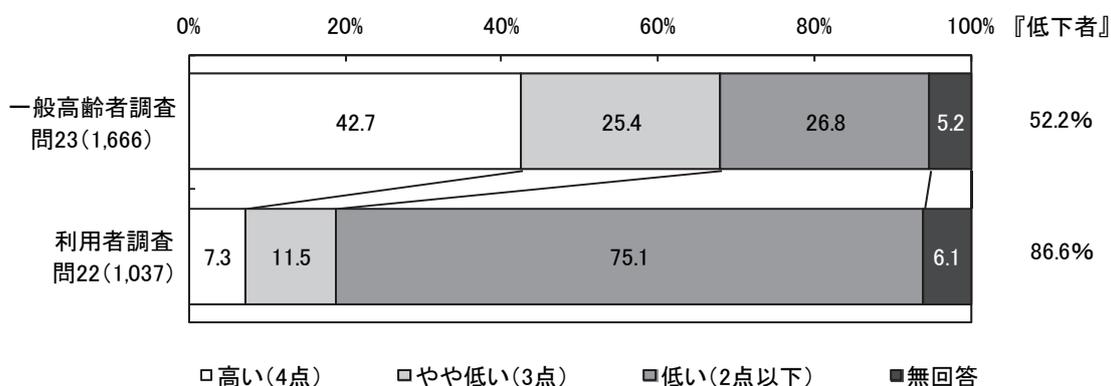
知的能動性の評価



※ () は回答者数

※ 『低下者』 = 「やや低い(3点)」 + 「低い(2点以下)」

社会的役割の評価



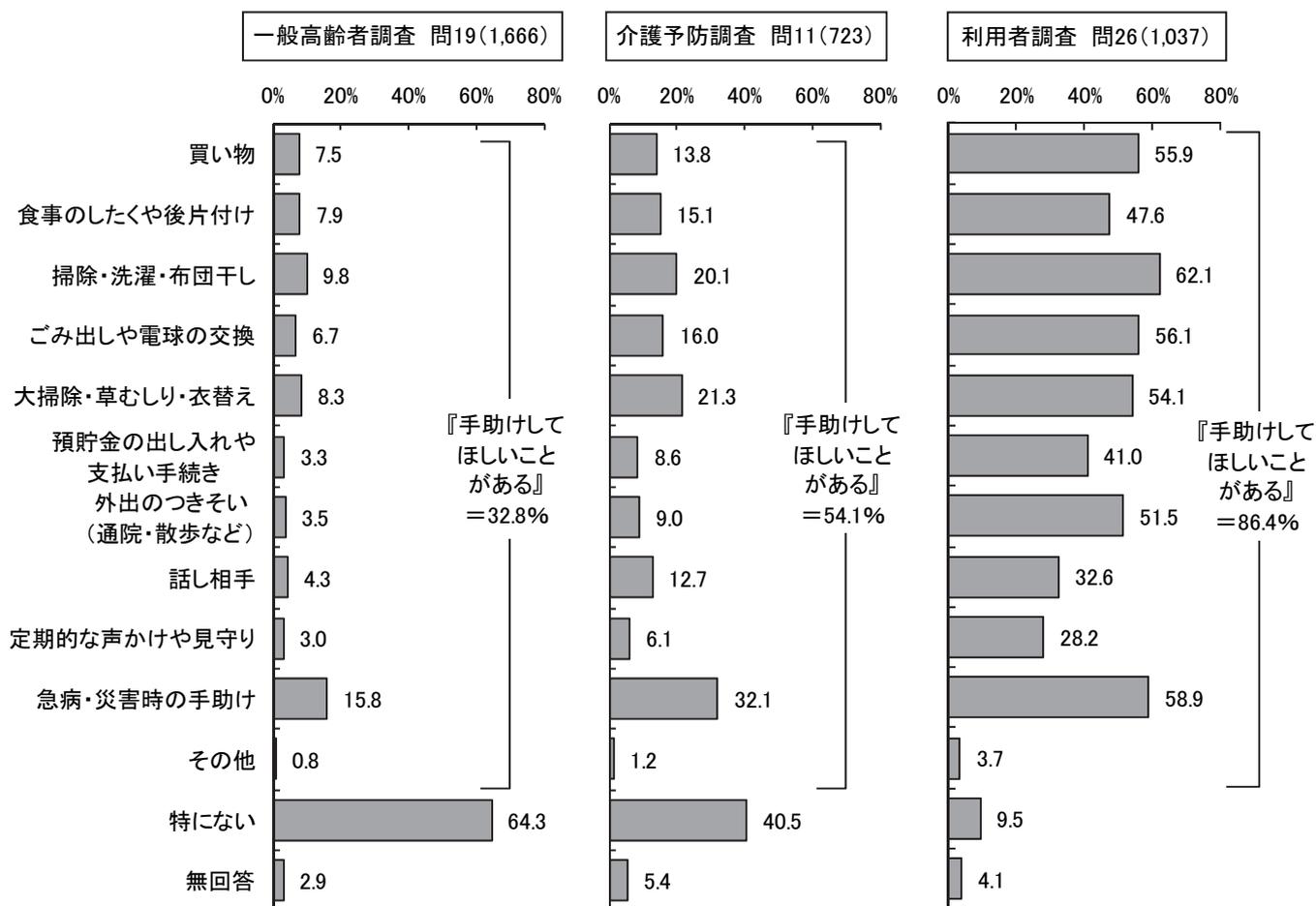
※ () は回答者数

※ 『低下者』 = 「やや低い(3点)」 + 「低い(2点以下)」

(7) 日常生活の中で手助けしてほしいこと

『手助けしてほしいことがある』と回答した人の割合は、【一般高齢者調査】、【介護予防調査】、【利用者調査】と、介護の必要性が高くなるほど高くなっている。

手助けしてほしい内容をみると、【一般高齢者調査】【介護予防調査】では「急病・災害時の手助け」がもっとも高い。一方、【利用者調査】では「掃除・洗濯・布団干し」62.1%がもっとも高く、また、「急病・災害時の手助け」「ごみ出しや電球の交換」「買い物」「大掃除・草むしり・衣替え」「外出のつきそい（通院・散歩など）」についても半数以上が手助けしてほしいと回答している。

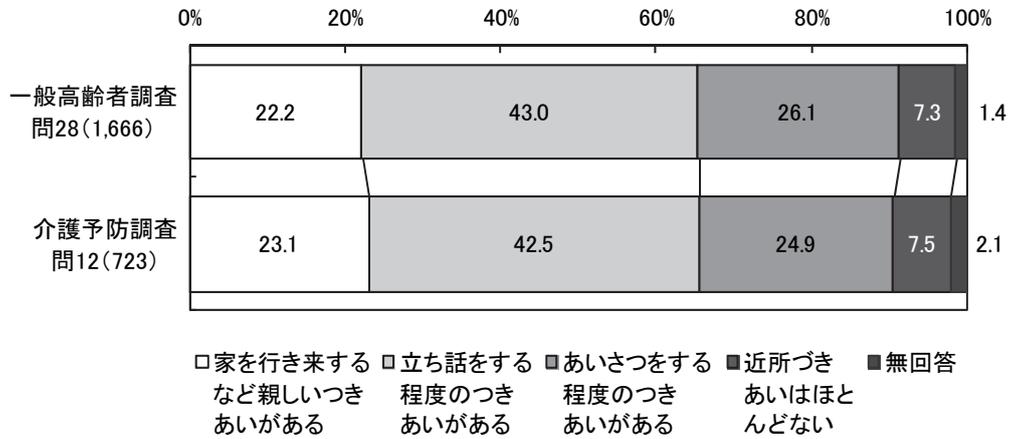


※ () は回答者数

※ 『手助けしてほしいことがある』 = 100% - 「特にない」 - 「無回答」

(8) 近所の人とのつきあいの程度

【一般高齢者調査】、【介護予防調査】ともほぼ同様の結果であり、「立ち話をする程度のつきあいがある」が約4割を占めてもっとも高く、次いで「あいさつをする程度のつきあいがある」となっている。

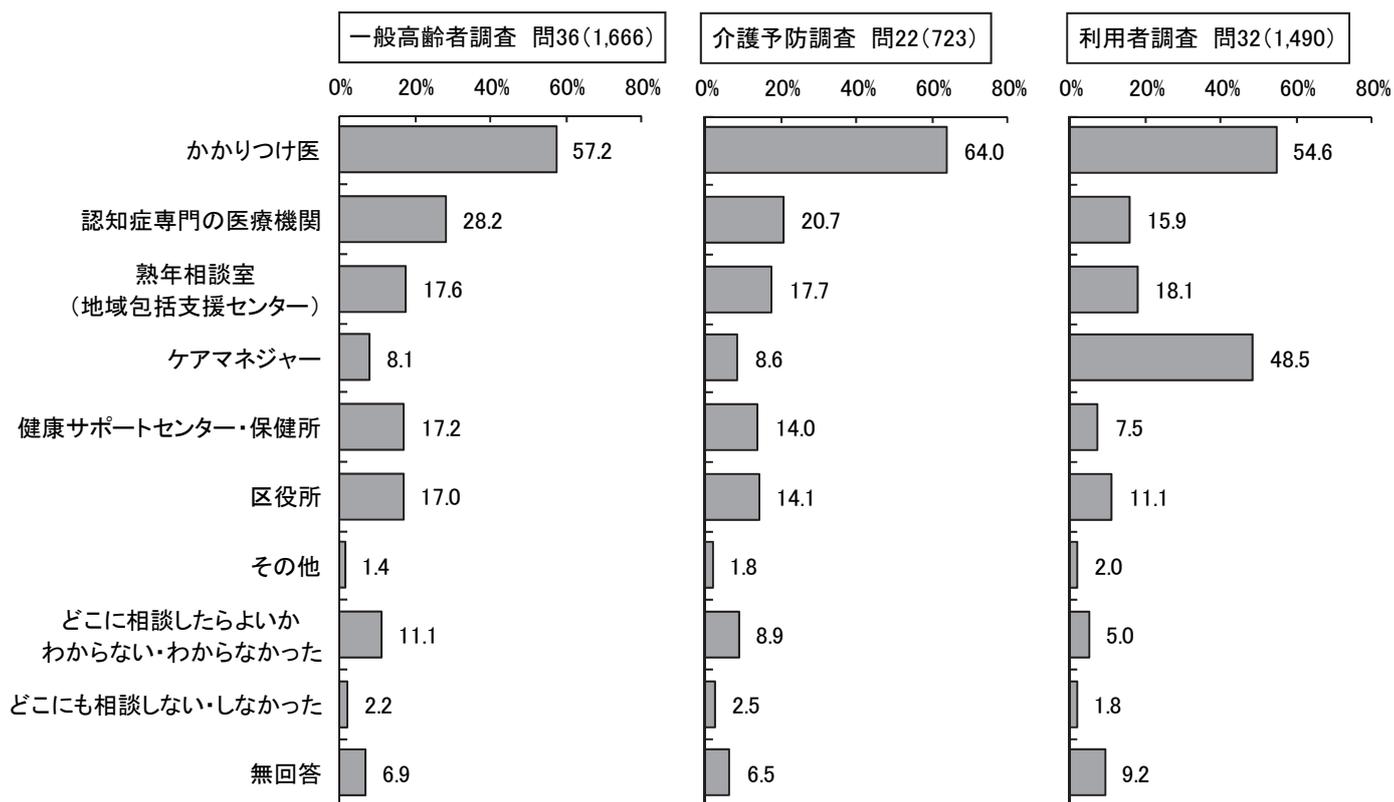


※ () は回答者数

(9) 認知症に関する相談先

【一般高齢者調査】、【介護予防調査】、【利用者調査】とも「かかりつけ医」がもっとも高く、いずれも5割を超えている。次いで、【一般高齢者調査】と【介護予防調査】では「認知症専門の医療機関」、【利用者調査】では「ケアマネジャー」となっている。

「どこに相談したらよいかわからない・わからなかった」は、【一般高齢者調査】で11.1%と1割台を占めている。

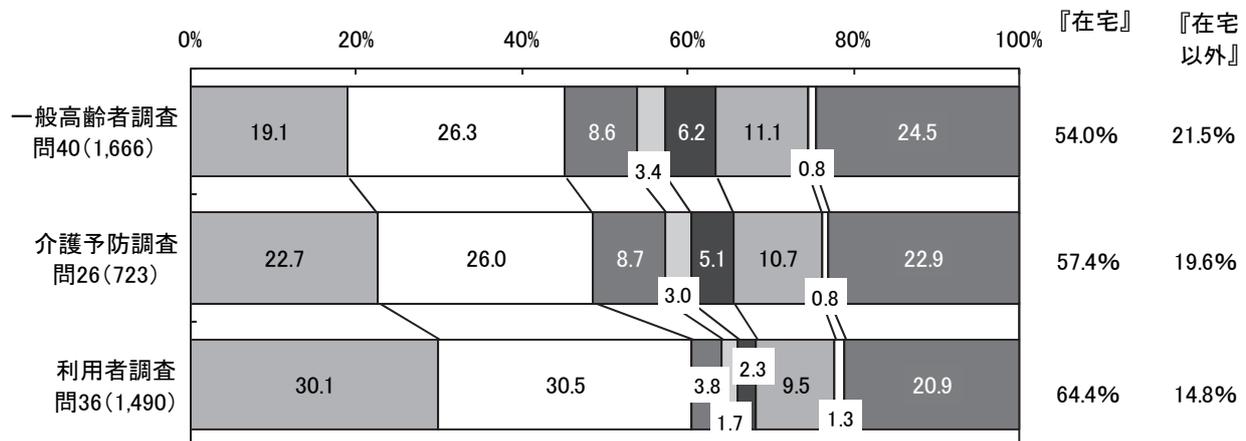


※ () は回答者数

(10) 今後介護を受けたい場所

『在宅』を希望する割合は、【一般高齢者調査】、【介護予防調査】、【利用者調査】とも5割を超えている。

【一般高齢者調査】、【介護予防調査】、【利用者調査】ともに「主に介護サービスを利用して、自宅（又は子どもの家）で暮らしたい」との意向が、もっとも高い。



- 主に家族の介護を受けながら、自宅(又は子どもの家)で暮らしたい
- 主に介護サービスを利用して、自宅(又は子どもの家)で暮らしたい
- 高齢者向け住宅に住み替えて、介護サービスを利用したい
- 有料老人ホームなどで暮らしたい
- 数人で暮らせる、家庭的な介護付きホーム(施設)で暮らしたい
- 介護保険施設(特別養護老人ホームなど)に入りたい
- その他
- わからない・無回答

※ () は回答者数

※ 『在宅』 = 「主に家族の介護を受けながら、自宅(又は子どもの家)で暮らしたい」
 + 「主に介護サービスを利用して、自宅(又は子どもの家)で暮らしたい」
 + 「高齢者向け住宅に住み替えて、介護サービスを利用したい」

※ 『在宅以外』 = 「有料老人ホームなどで暮らしたい」
 + 「数人で暮らせる、家庭的な介護付きホーム(施設)で暮らしたい」
 + 「介護保険施設(特別養護老人ホームなど)に入りたい」
 + 「その他」

(11) 在宅で暮らし続けるために必要と思うこと

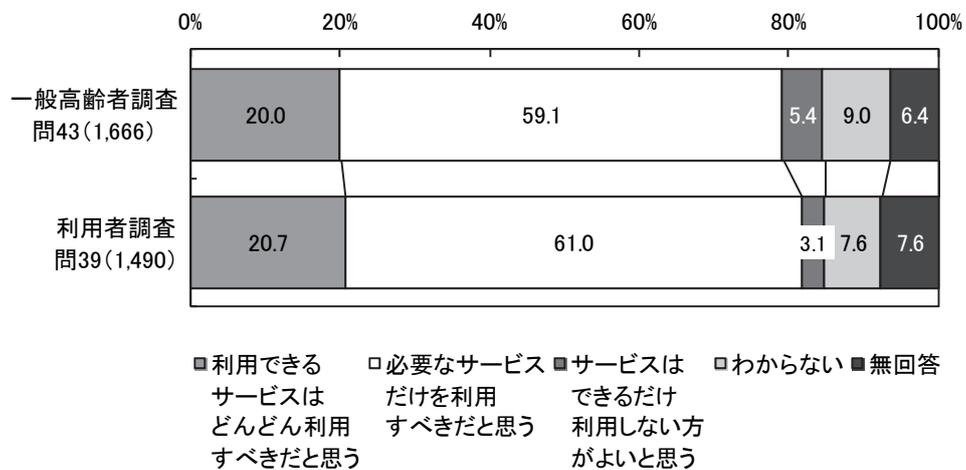
【一般高齢者調査】、【介護予防調査】、【利用者調査】とも、「住み続けられる住まいがある」「家族が同居している、または近くにいる」「訪問介護やデイサービスなど、普段から利用できる介護サービスがある」が上位3項目となっている。

	一般高齢者 調査 問 41	介護予防 調査 問 27	利用者 調査 問 37
回答者数	1,666 人	723 人	1,490 人
住み続けられる住まいがある	62.6%	58.5%	61.4%
家族が同居している、または近くにいる	55.0%	45.9%	53.0%
見守ってくれる友人、知人が近くにいる	17.0%	12.6%	13.6%
訪問介護やデイサービスなど、普段から利用できる 介護サービスがある	36.1%	27.5%	43.2%
必要に応じて、通ったり宿泊できるような介護サー ビスがある	24.4%	16.3%	22.6%
24 時間いつでも訪問してくれる介護サービスがある	22.4%	18.4%	16.4%
身近に利用できる医療機関がある	29.4%	25.7%	31.6%
いつでも利用(入所)できる施設が近くにある	19.9%	16.3%	17.5%
その他	0.8%	1.1%	0.8%
わからない	11.8%	13.4%	8.5%
特になし	3.6%	6.5%	1.7%
無回答	4.3%	5.9%	9.1%

※網掛けは各調査の上位3項目

(12) 介護保険サービス利用に対する考え

【一般高齢者調査】、【利用者調査】とも「必要なサービスだけを利用すべきだと思う」がもっとも高く、【一般高齢者調査】の59.1%、【利用者調査】の61.0%を占める。

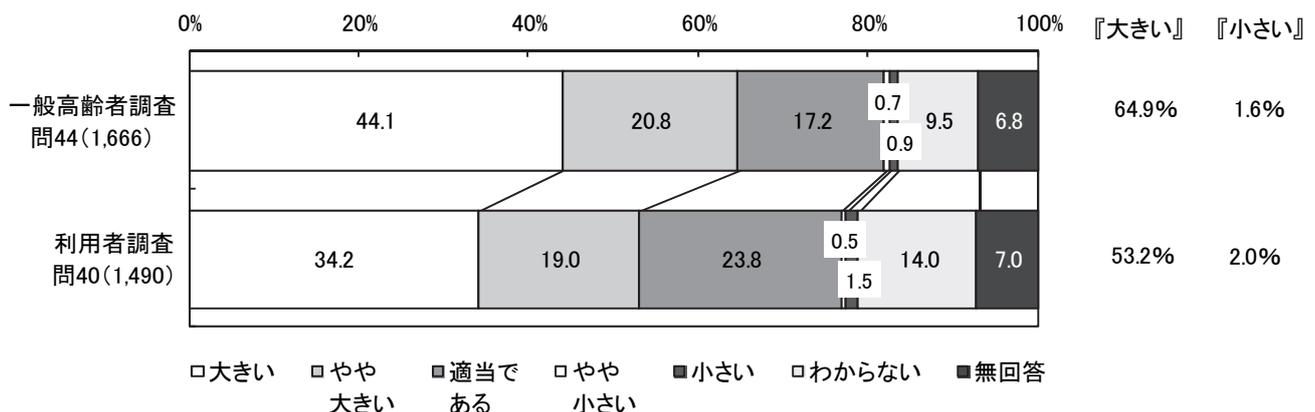


※ () は回答者数

(13) 介護保険料の家計への影響

【一般高齢者調査】、【利用者調査】とも5割以上が家計への影響は『大きい』と回答しており、特に【一般高齢者調査】では6割を超えている。

【利用者調査】では23.8%が「適当である」と回答しており、【一般高齢者調査】に比べて高い割合となっている。



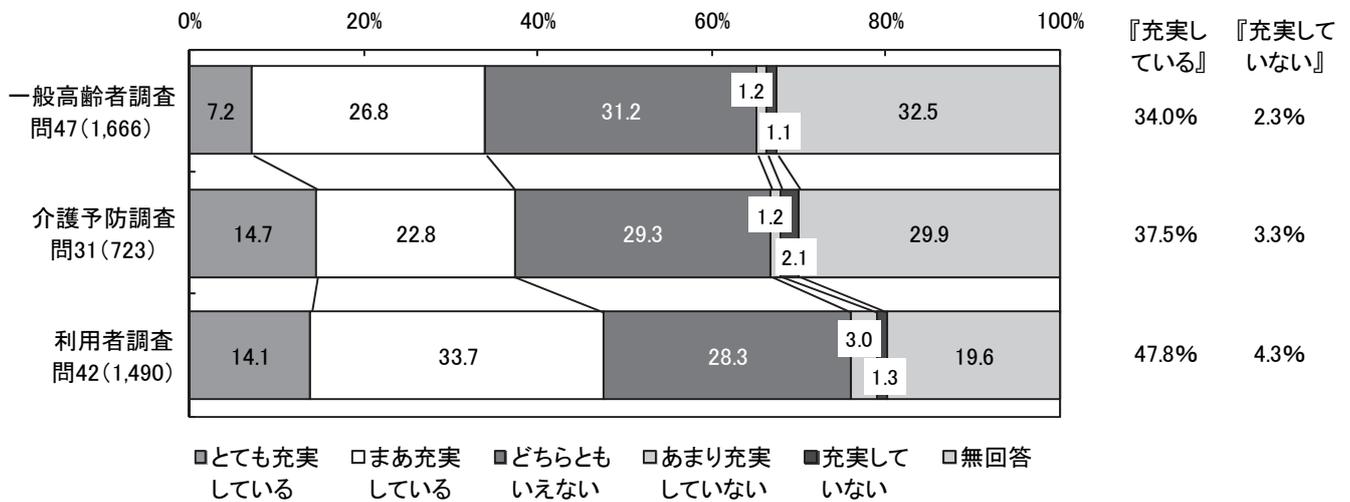
※ () は回答者数

※ 『大きい』 = 「大きい」 + 「やや大きい」

※ 『小さい』 = 「やや小さい」 + 「小さい」

(14) 区の熟年者施策の充実度

『充実している』と回答した人の割合は、【一般高齢者調査】【介護予防調査】の3割台に対し、【利用者調査】は47.8%と5割近く、他の調査に比べて高い割合となっている。



※ () は回答者数

※ 『充実している』 = 「とても充実している」 + 「まあ充実している」

※ 『充実していない』 = 「あまり充実していない」 + 「充実していない」

(15) 区の熟年者施策で充実してほしいこと

【一般高齢者調査】、【介護予防調査】、【利用者調査】とも、「介護する家族に対する支援」が第1位となっている。

次いで、【一般高齢者調査】は「健康づくりや介護が必要にならないための支援」、【介護予防調査】は「介護が必要になっても住み続けられる住まいの整備」、【利用者調査】は「在宅生活を支える介護サービス」となっている。

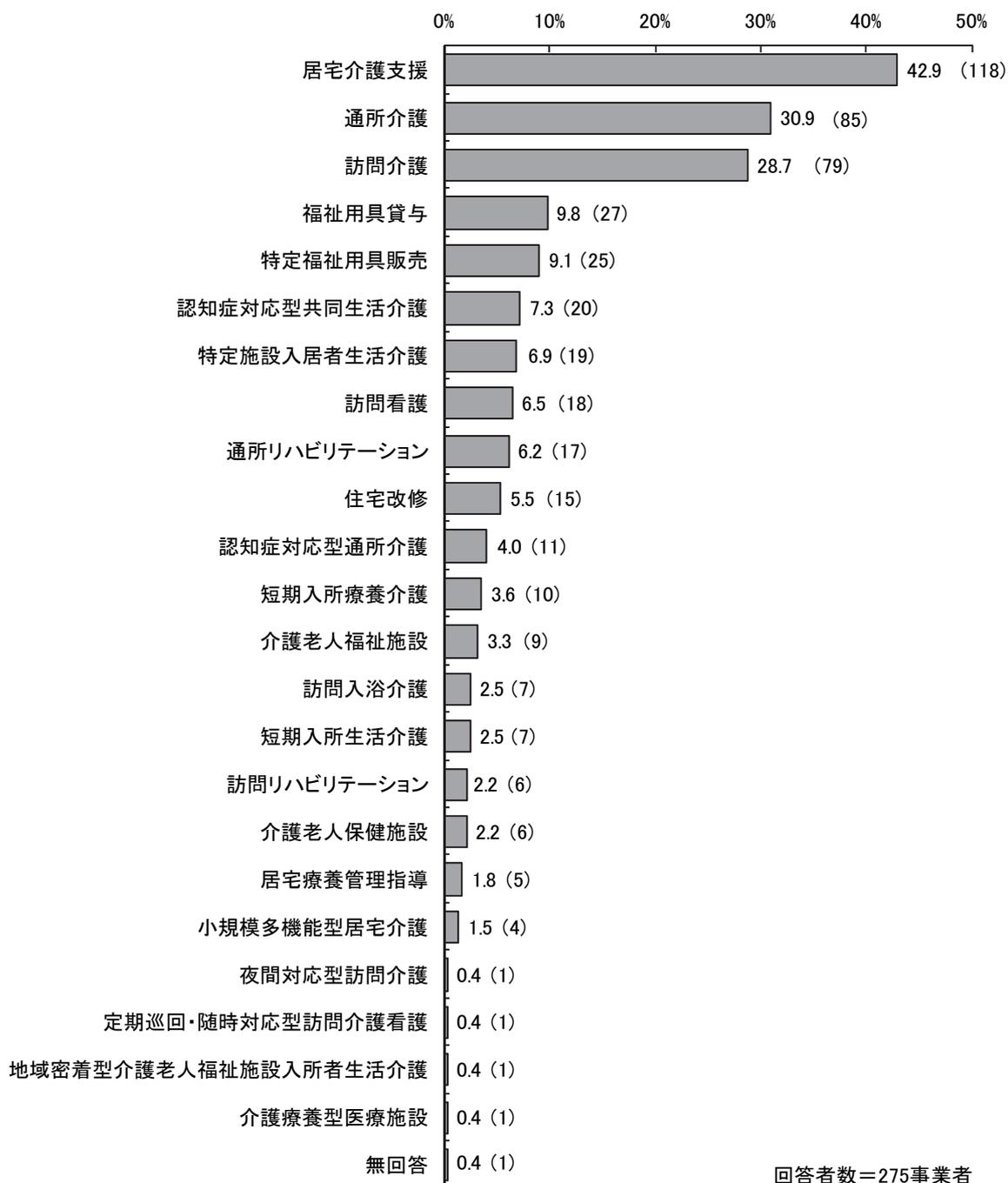
	一般高齢者 調査 問 48	介護予防 調査 問 32	利用者 調査 問 43
回答者数	1,666 人	723 人	1,490 人
健康づくりや介護が必要にならないための支援	45.1%	39.0%	33.0%
熟年者の就労や社会参加の支援	28.8%	18.0%	15.2%
配食や買い物、ごみ出し等の生活支援	15.5%	16.7%	24.0%
在宅生活を支える医療ケアなど医療の充実	37.5%	37.8%	37.7%
在宅生活を支える介護サービス	37.7%	38.2%	40.9%
介護が必要になっても住み続けられる住まいの整備	36.4%	39.7%	32.8%
介護を受けられる入所施設の整備	42.6%	35.7%	37.0%
ひとり暮らしの人等を地域で見守るネットワークづくり	35.0%	31.1%	29.0%
介護する家族に対する支援	49.5%	44.1%	45.8%
介護保険制度や区の熟年者施策に関する情報提供	29.1%	26.6%	23.4%
申請や相談がしやすい窓口の整備	41.3%	39.6%	30.1%
判断能力が低下した場合の支援や熟年者の人権擁護	25.4%	24.9%	22.2%
段差解消や歩道の整備など、安全なまちづくり	35.5%	38.5%	36.7%
その他	1.5%	1.2%	1.7%
特になし	5.4%	6.1%	4.5%
無回答	8.1%	11.5%	12.8%

※網掛けは各調査の上位3項目

6. 介護保険サービス事業者調査

(1)実施している介護サービス事業

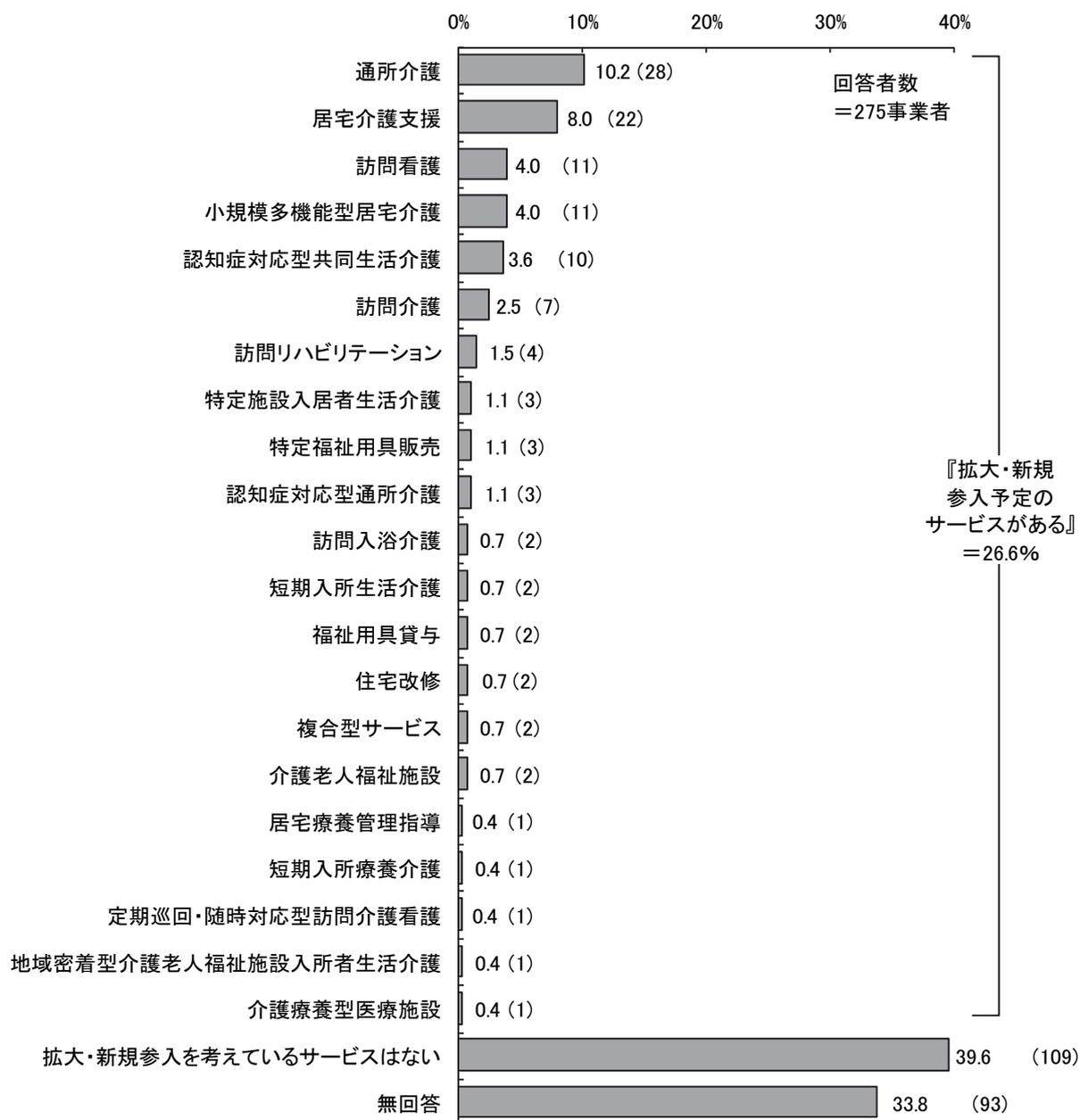
実施している介護サービス事業は、「居宅介護支援」42.9%（118 事業所）がもっとも高く、次いで「通所介護」30.9%（85 事業所）、「訪問介護」28.7%（79 事業所）、「福祉用具貸与」9.8%（27 事業所）、「特定福祉用具販売」9.1%（25 事業所）などとなっている。



※ () 内は事業者数

(2) 事業の拡大・新規参入を考えているサービス

事業の拡大・新規参入を考えているサービスは、「通所介護」が 10.2% (28 事業所)、「居宅介護支援」が 8.0% (22 事業所)、「訪問看護」「小規模多機能型居宅介護」が各 4.0% (11 事業所)、「認知症対応型共同生活介護」が 3.6% (10 事業所) などとなっている。



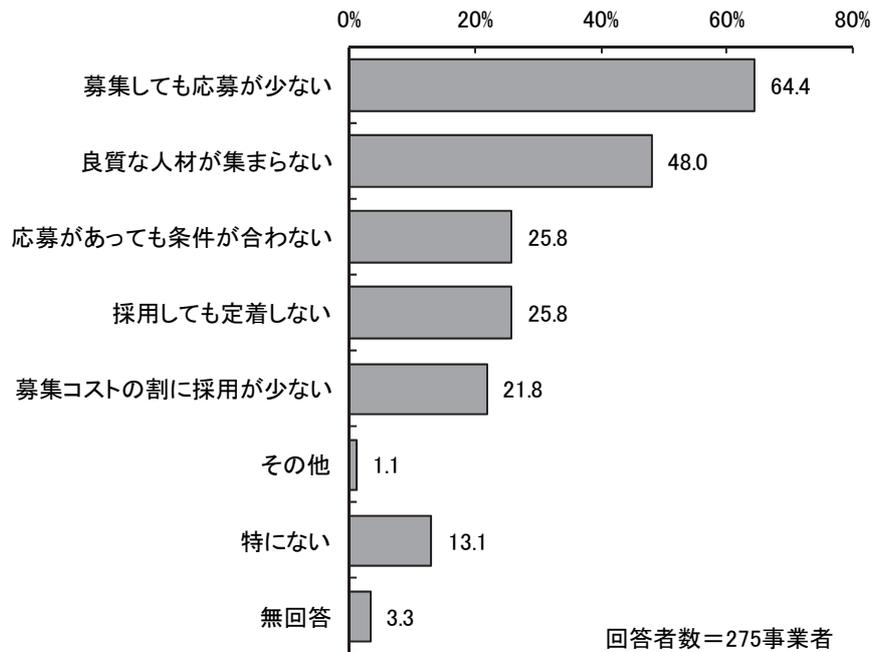
※ () は事業者数

※ 『拡大・新規参入予定のサービスがある』 = 100% - 「拡大・新規参入を考えているサービスはない」 - 「無回答」

※ 参入意向のないサービスは掲載を省略している

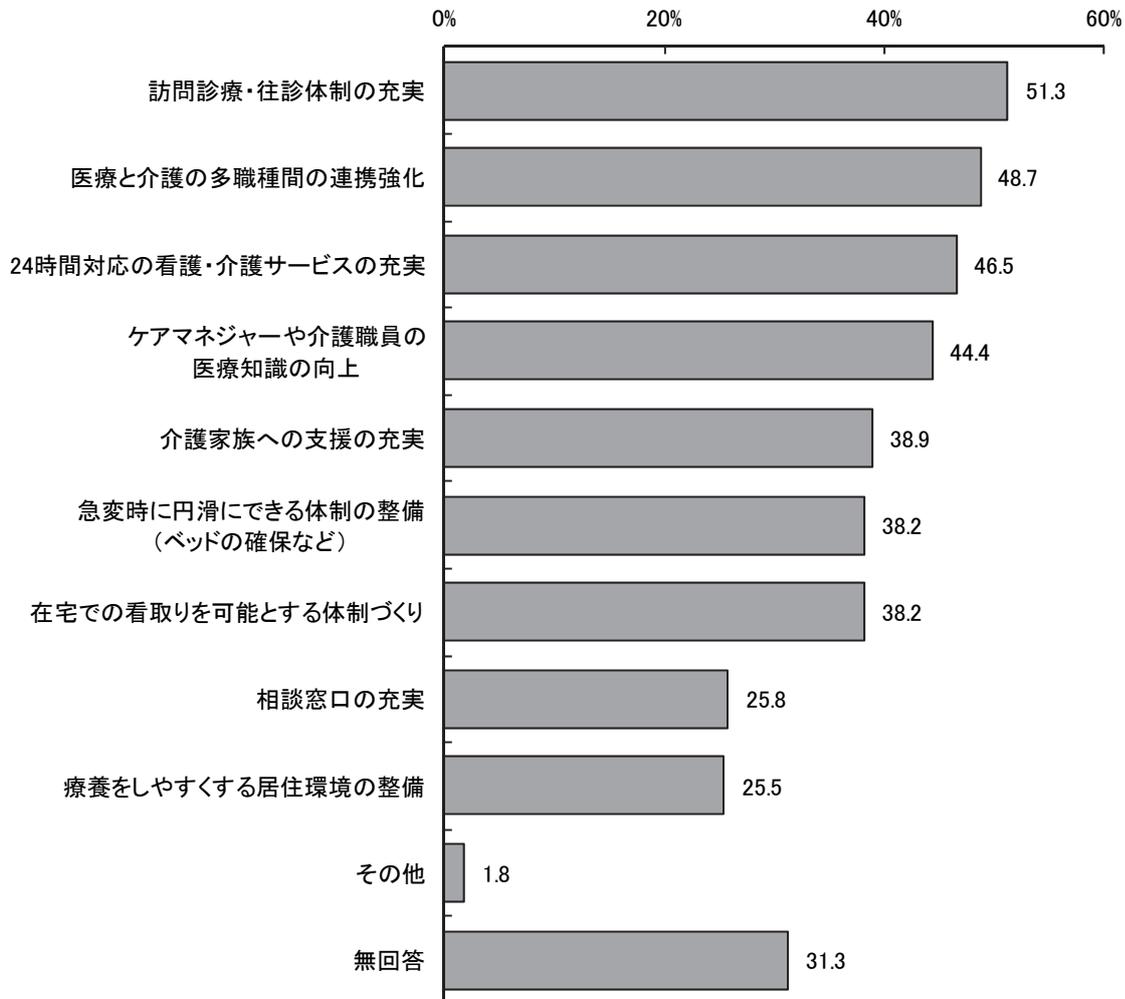
(3)人材確保において困っていること

人材確保において困っていることは、「募集しても応募が少ない」が 64.4%、「良質な人材が集まらない」が 48.0%、「応募があっても条件が合わない」「採用しても定着しない」が各 25.8%、「募集コストの割に採用が少ない」が 21.8%となっている。



(4) 医療ニーズの高い利用者の支援のために必要なこと

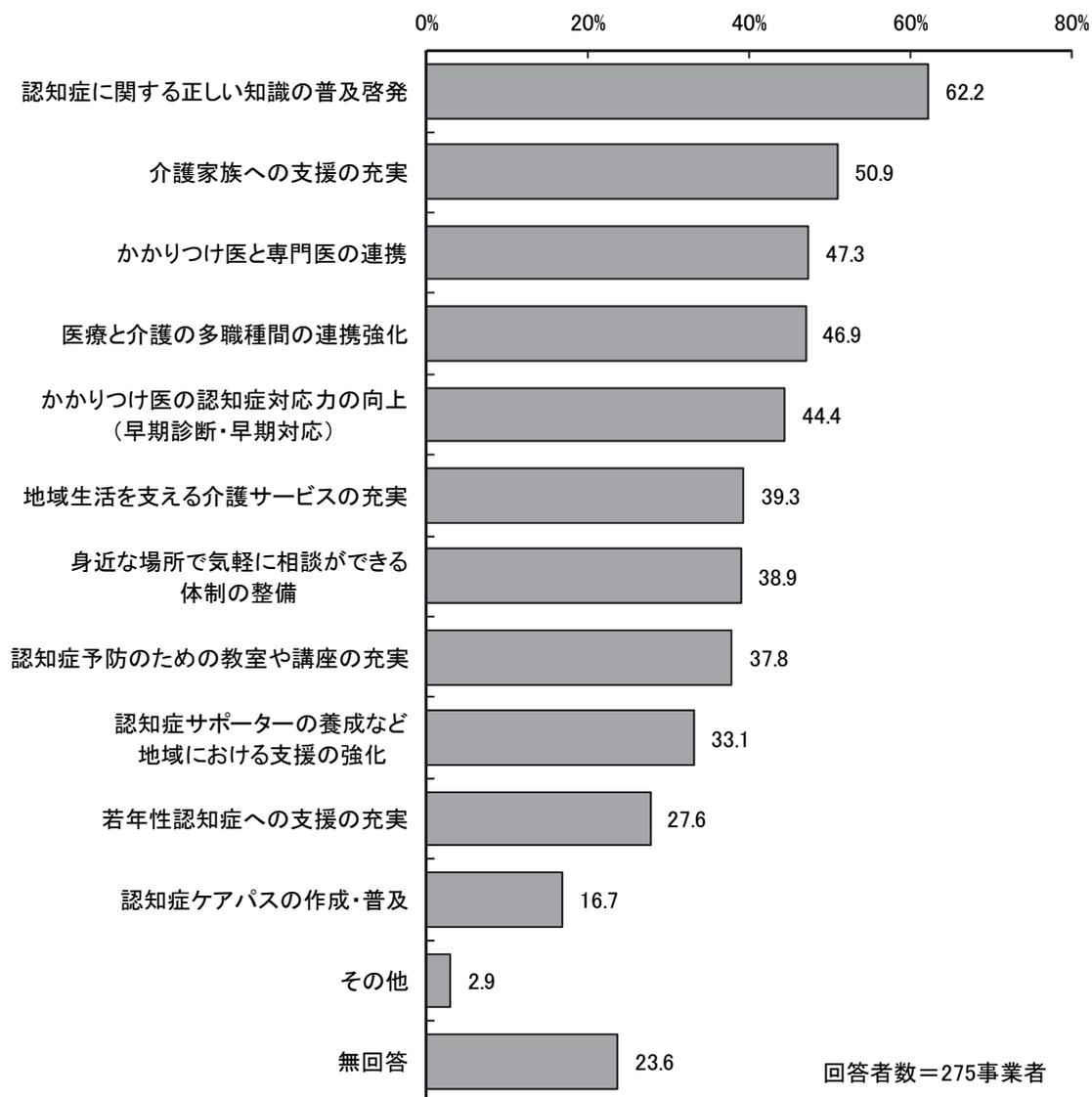
医療ニーズの高い利用者のために必要なことは、「訪問診療・往診体制の充実」51.3%がもっとも高く、次いで「医療と介護の多職種間の連携強化」「24時間対応の看護・介護サービスの充実」「ケアマネジャーや介護職員の医療知識の向上」が4割台が続いている。



回答者数=275事業者

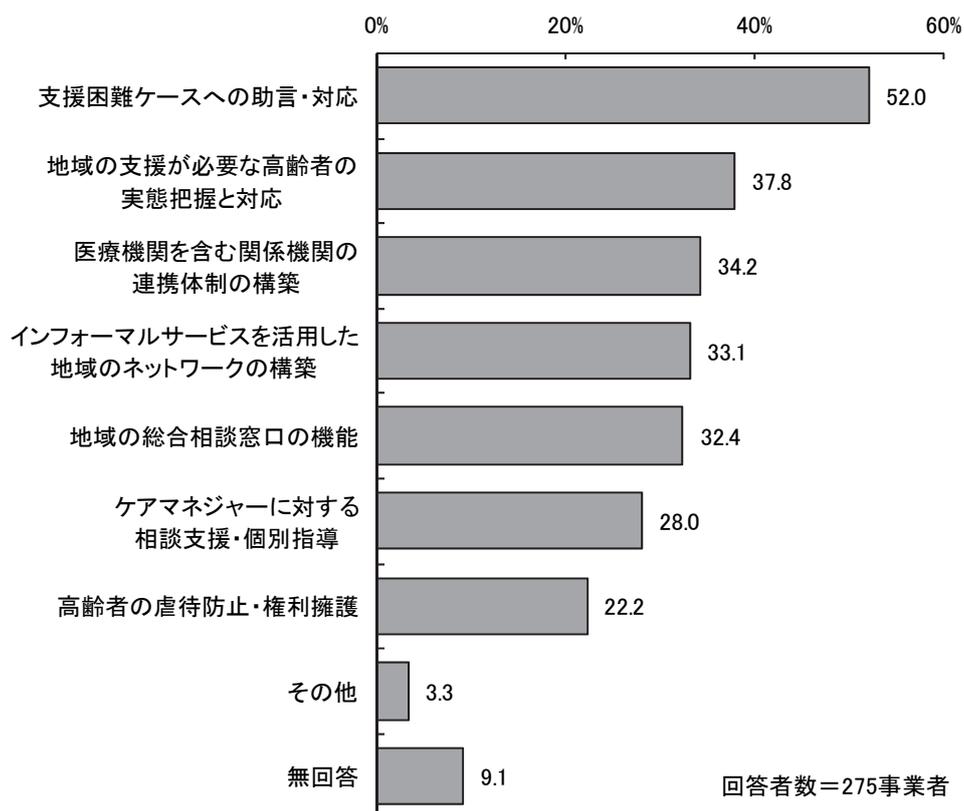
(5) 認知症の方の地域生活を支援するために必要なこと

認知症の方の地域生活を支援するために必要なことは、「認知症に関する正しい知識の普及啓発」62.2%がもっとも高く、次いで「介護家族への支援の充実」50.9%、「かかりつけ医と専門医の連携」47.3%、「医療と介護の多職種間の連携強化」46.9%、「かかりつけ医の認知症対応力の向上（早期診断・早期対応）」44.4%の順となっている。



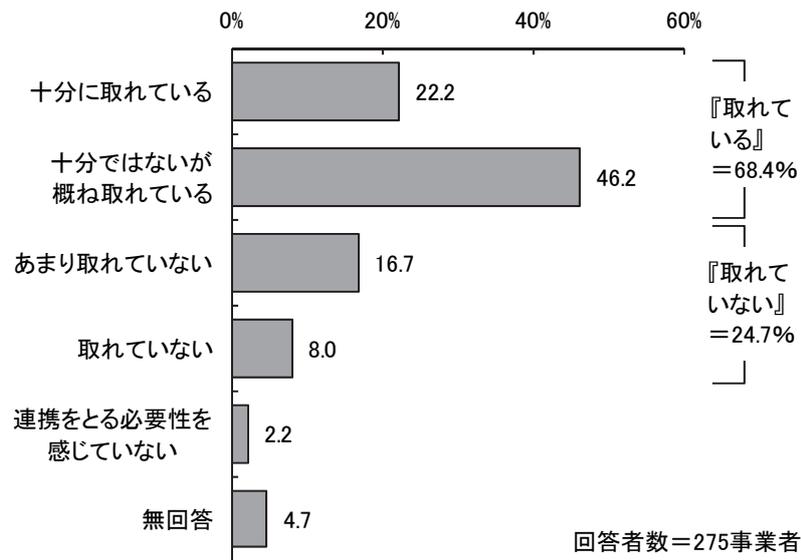
(6) 熟年相談室(地域包括支援センター)に充実してほしい役割

熟年相談室(地域包括支援センター)に充実してほしい役割は、「支援困難ケースへの助言・対応」52.0%がもっとも高く、次いで「地域の支援が必要な高齢者の実態把握と対応」37.8%、「医療機関を含む関係機関の連携体制の構築」34.2%、「インフォーマルサービスを活用した地域のネットワークの構築」33.1%、「地域の総合相談窓口の機能」32.4%の順となっている。



(7) 医療機関との連携状況

医療機関との連携状況は、「十分ではないが概ね取れている」46.2%、「十分に取れている」22.2%の順であり、これらをあわせた『取れている』は68.4%となっている。「あまり取れていない」16.7%、「取れていない」8.0%をあわせた『取れていない』は24.7%となっている。

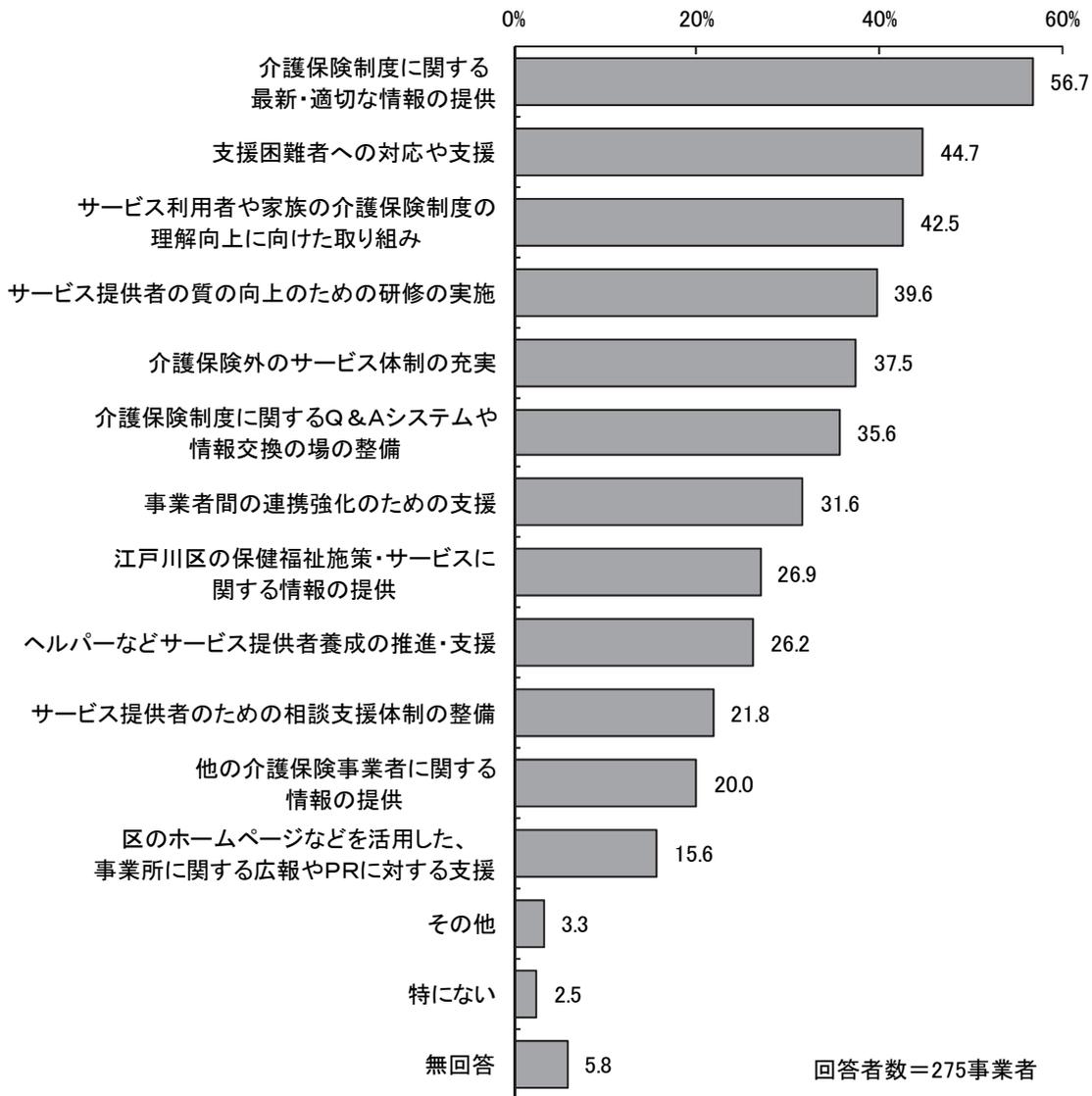


※『取れている』 = 「十分に取れている」 + 「十分ではないが概ね取れている」

※『取れていない』 = 「あまり取れていない」 + 「取れていない」

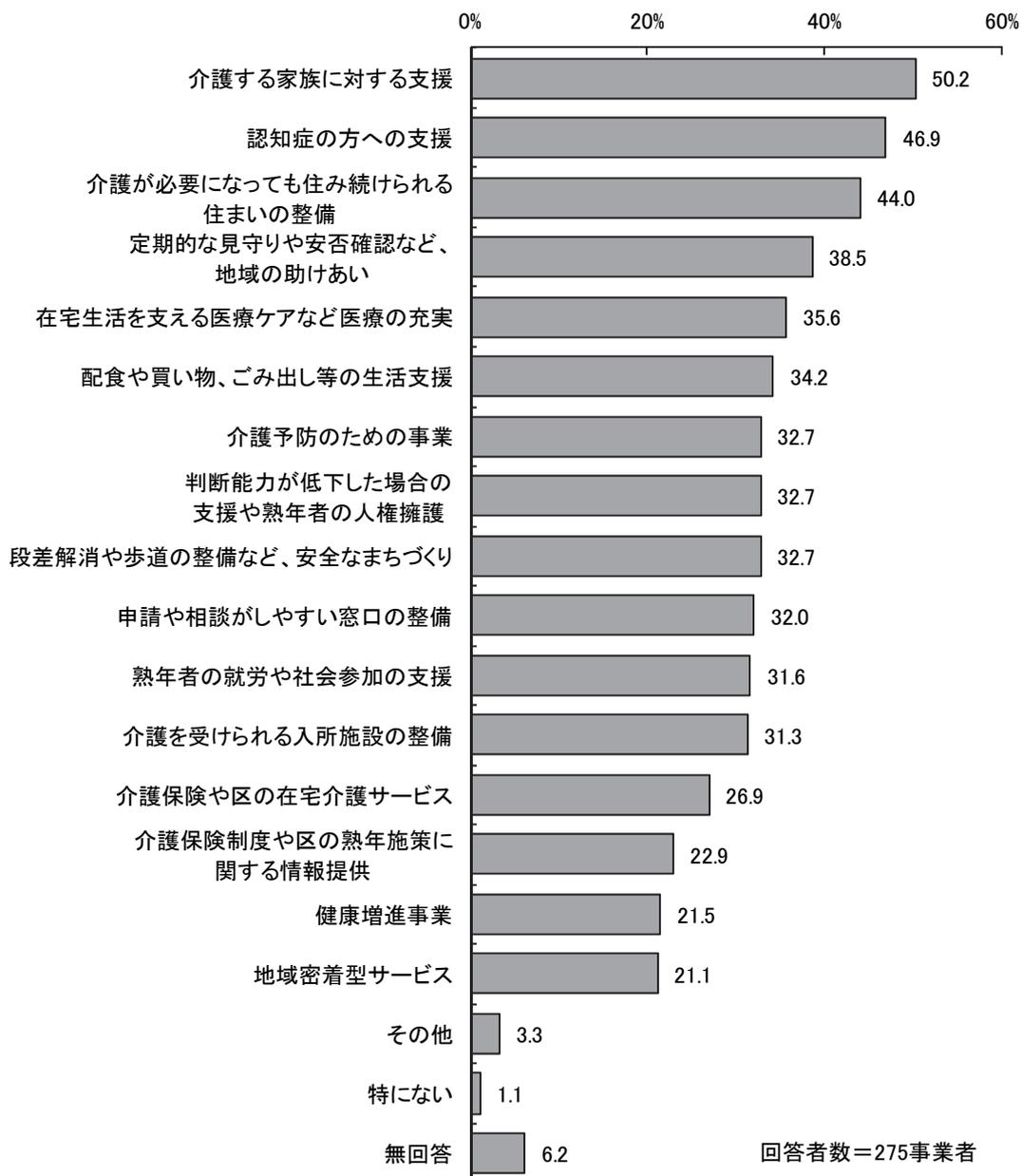
(8) 区に充実・支援してほしいこと

区に充実・支援してほしいことは、「介護保険制度に関する最新・適切な情報の提供」56.7%がもっとも高く、次いで「支援困難者への対応や支援」44.7%、「サービス利用者や家族の介護保険制度の理解向上に向けた取り組み」42.5%、「サービス提供者の質の向上のための研修の実施」39.6%「介護保険外のサービス体制の充実」37.5%の順となっている。



(9) 今後力を入れるべき熟年者施策

今後力を入れるべき熟年者施策は、「介護する家族に対する支援」50.2%、「認知症の方への支援」46.9%、「介護が必要になっても住み続けられる住まいの整備」44.0%、「定期的な見守りや安否確認など、地域の助けあい」38.5%、「在宅生活を支える医療ケアなど医療の充実」35.6%が上位5位となっている。

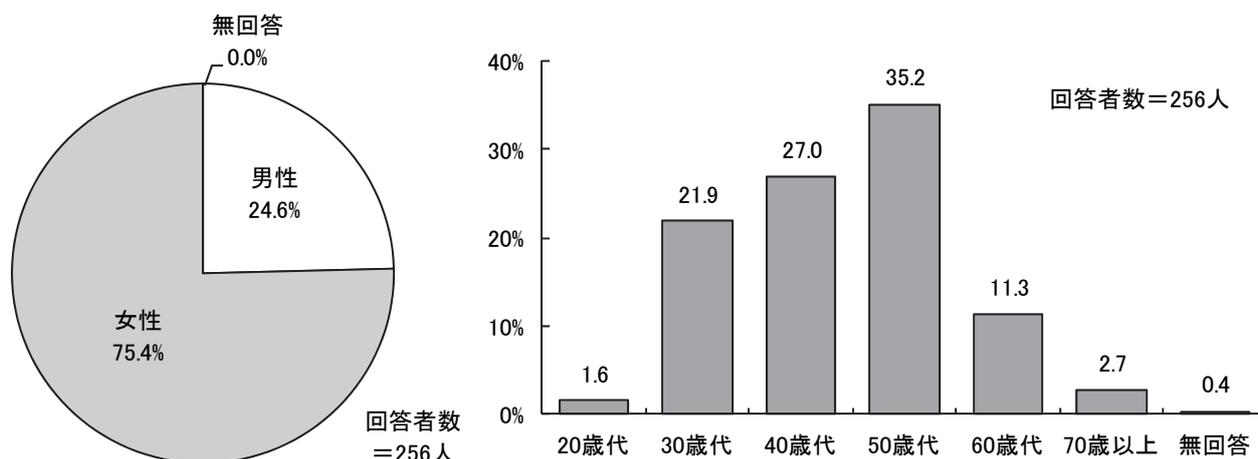


7. 介護支援専門員調査

(1) 本人の性別、現在の満年齢

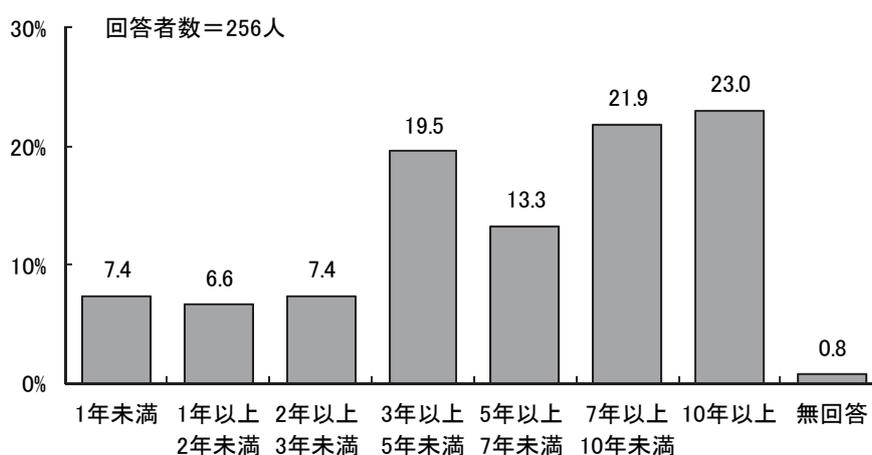
性別は、「男性」は24.6%であり、「女性」が75.4%と男性の約3倍となっている。

年齢は、「50歳代」35.2%がもっとも多く、次いで「40歳代」が27.0%、「30歳代」が21.9%、「60歳代」が11.3%となっている



(2) 介護支援専門員としての実務年数

介護支援専門員としての実務年数は、「10年以上」23.0%、「7年以上10年未満」21.9%、「3年以上5年未満」19.5%、「5年以上7年未満」13.3%の順となっている。



(3)担当している利用者数

担当している利用者数をみると、要支援者の合計人数は、全体が1,481人、江戸川区民が1,358人であり、ケアマネジャー1人あたり平均利用者数は、全体が7.5人、江戸川区民が6.7人となっている。

要介護者の合計人数は、全体が4,964人、江戸川区民が4,547人であり、ケアマネジャー1人あたり平均利用者数は、全体が24.8人、江戸川区民が23.0人となっている。

担当している利用者数(要支援者数)

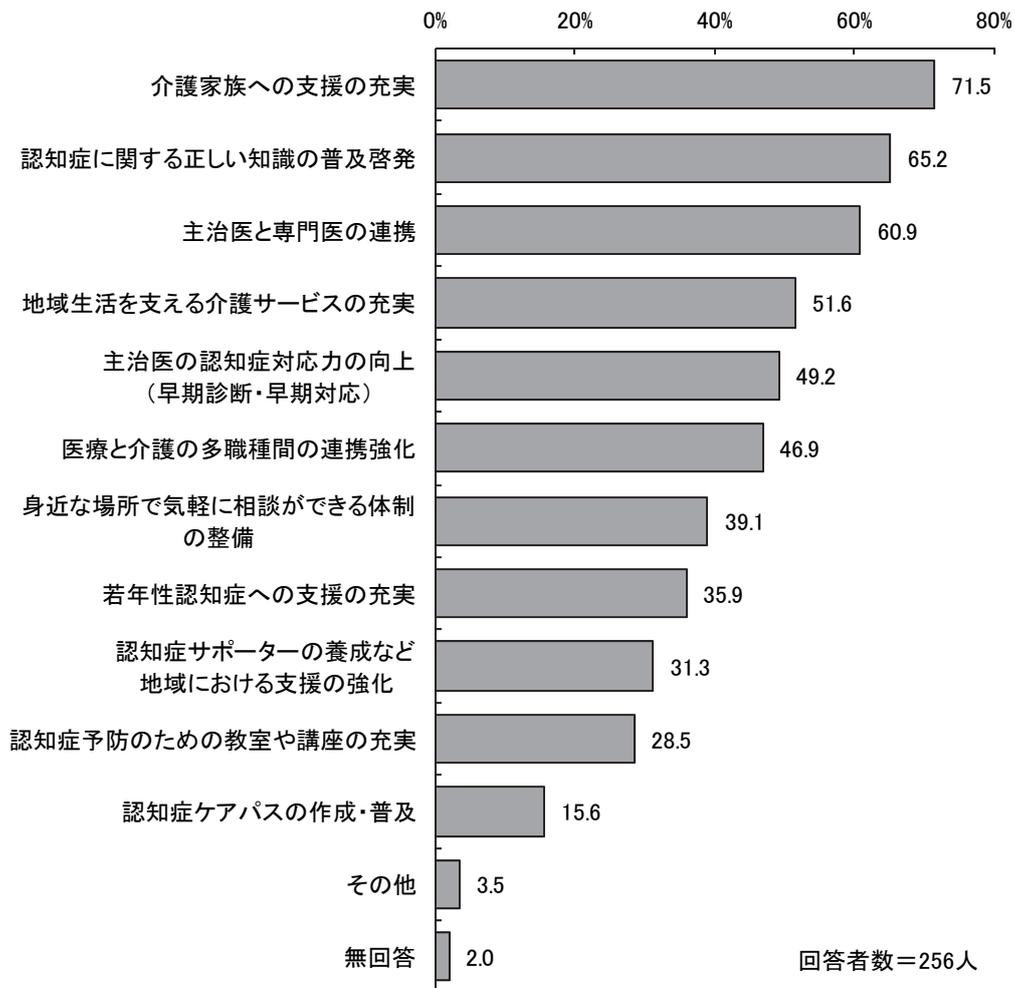
	人数	ケアマネジャー 1人あたり 平均利用者数
全体	1,481人	7.5人
江戸川区民	1,358人	6.7人

担当している利用者数(要介護者数)

	人数	ケアマネジャー 1人あたり 平均利用者数
全体	4,964人	24.8人
江戸川区民	4,547人	23.0人

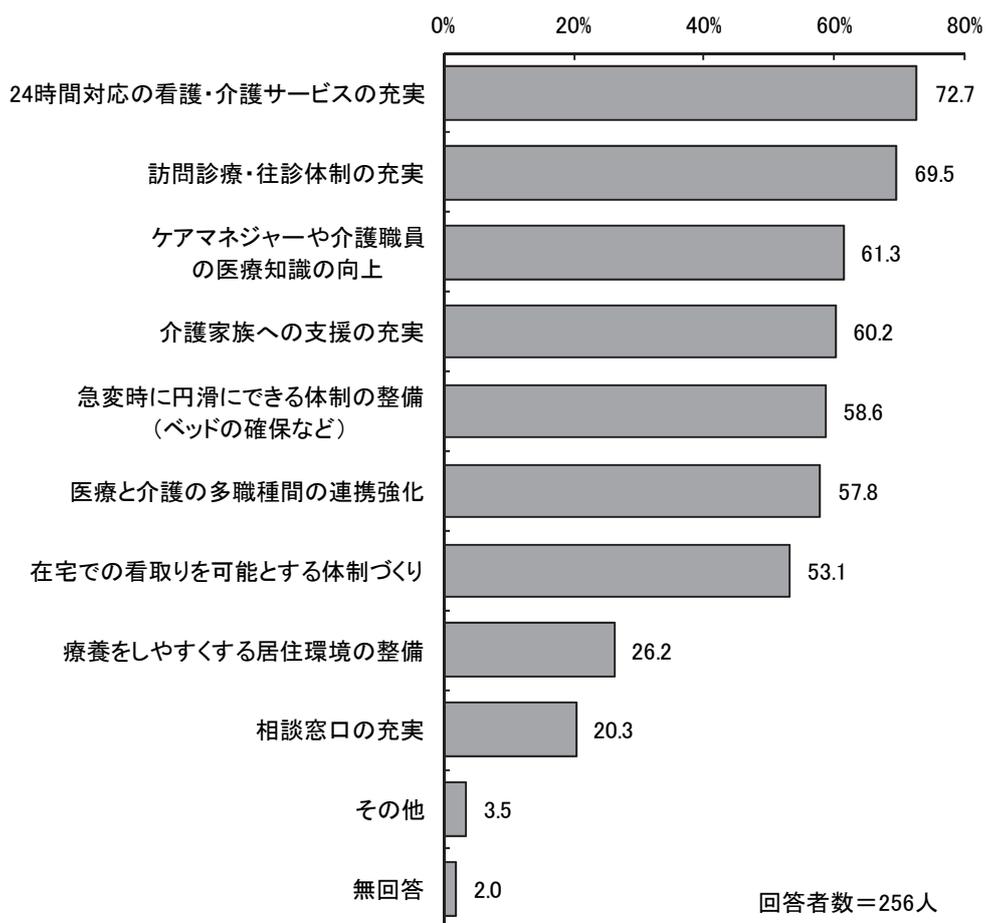
(4) 認知症の方の地域生活を支援するために必要なこと

認知症の方の地域生活を支援するために必要なことは、「介護家族への支援の充実」71.5%、「認知症に関する正しい知識の普及啓発」65.2%、「主治医と専門医の連携」60.9%、「地域生活を支える介護サービスの充実」51.6%、「主治医の認知症対応力の向上（早期診断・早期対応）」49.2%の順となっている。



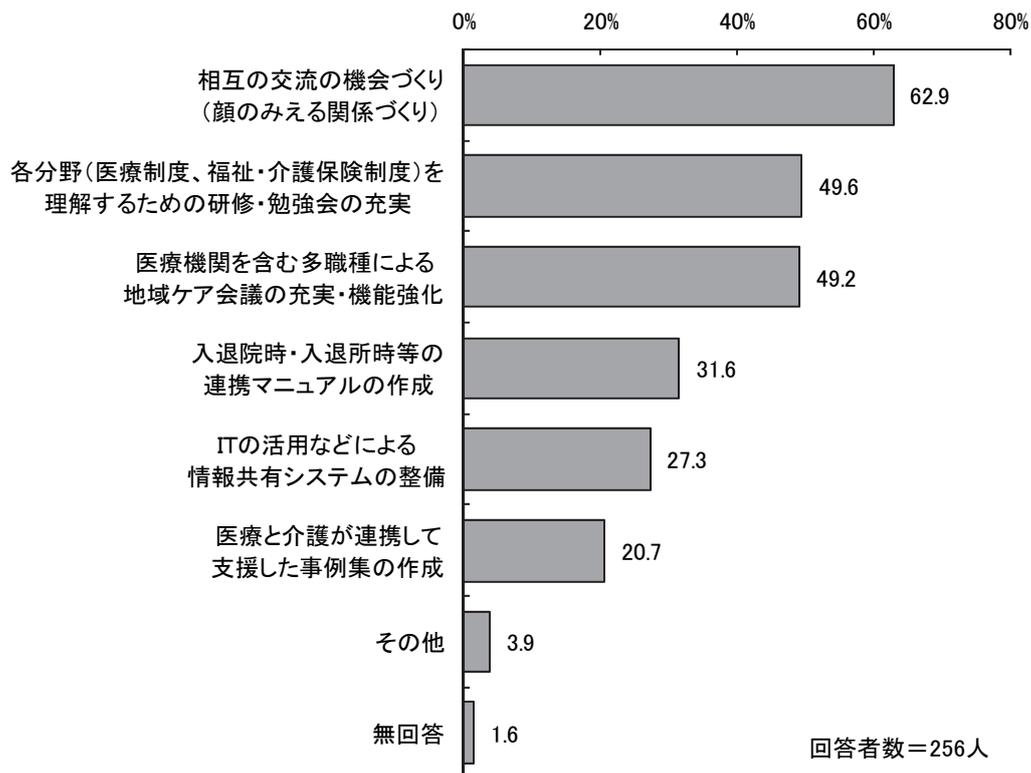
(5) 医療ニーズの高い利用者の在宅療養を支援するために必要なこと

医療ニーズの高い利用者の在宅療養を支援するために必要なことは、「24時間対応の看護・介護サービスの充実」72.7%、「訪問診療・往診体制の充実」69.5%の順であり、医療・看護・介護サービスの充実が上位となっている。次いで、「ケアマネジャーや介護職員の医療知識の向上」61.3%、「介護家族への支援の充実」60.2%、「急変時に円滑にできる体制の整備（ベッドの確保など）」58.6%となっている。



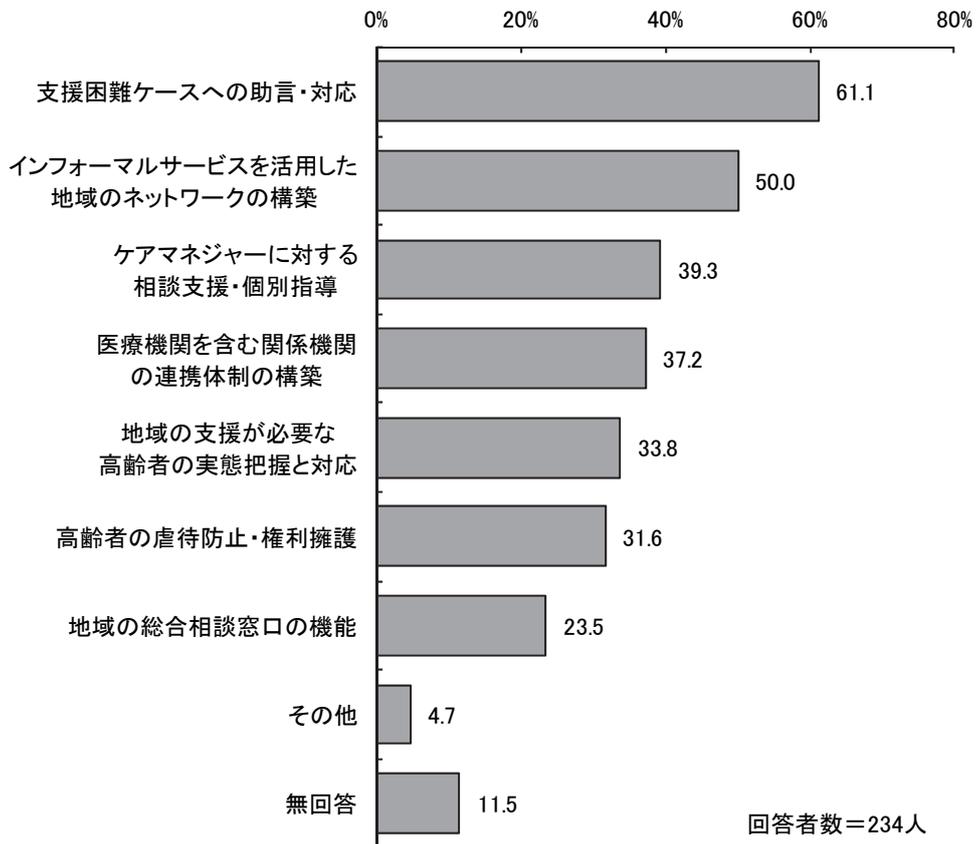
(6) 医療との連携のために必要なこと

医療との連携のために必要なことは、「相互の交流の機会づくり（顔のみえる関係づくり）」62.9%がもっとも高く、次いで「各分野（医療制度、福祉・介護保険制度）を理解するための研修・勉強会の充実」49.6%、「医療機関を含む多職種による地域ケア会議の充実・機能強化」49.2%の順となっている。



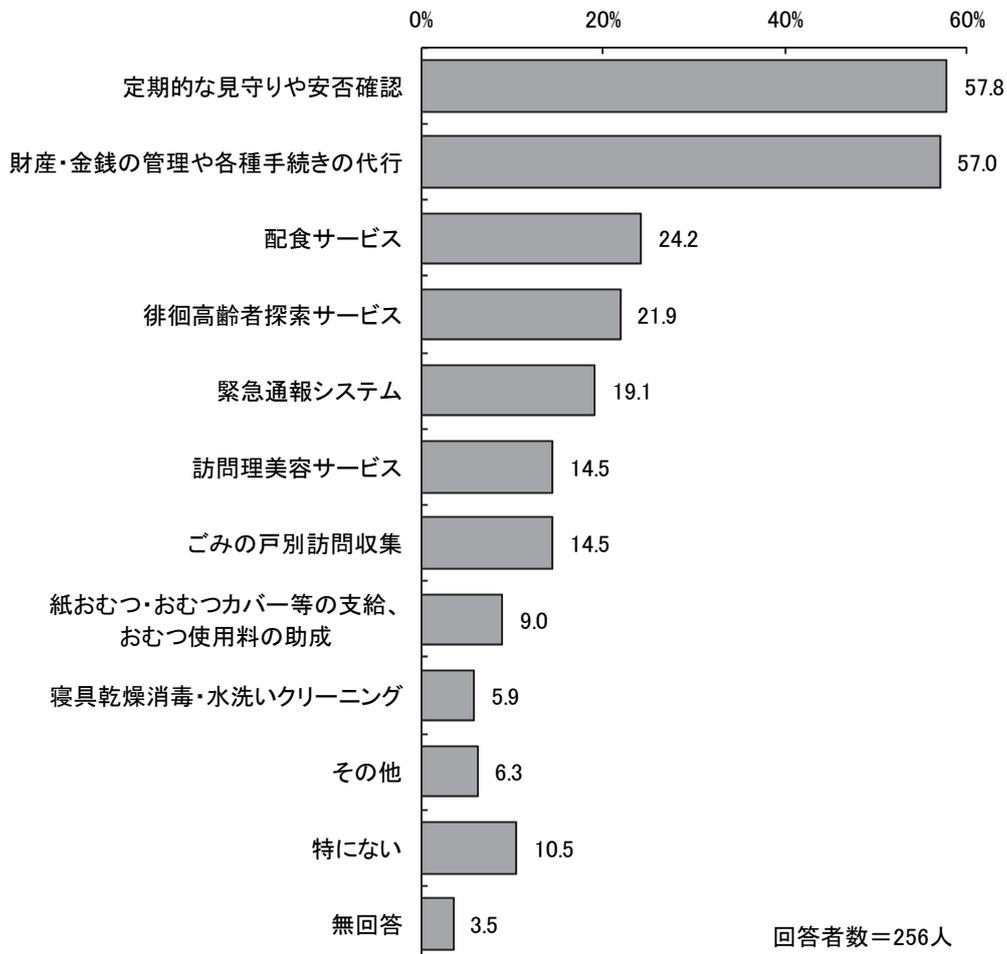
(7) 熟年相談室(地域包括支援センター)に充実してほしい役割

熟年相談室(地域包括支援センター)に充実してほしい役割は、「支援困難ケースへの助言・対応」61.1%、「インフォーマルサービスを活用した地域のネットワークの構築」50.0%、「ケアマネジャーに対する相談支援・個別指導」39.3%の順となっている。



(8) 充実すべき介護保険以外のサービス

充実すべき介護保険以外のサービスは、「定期的な見守りや安否確認」57.8%、「財産・金銭の管理や各種手続きの代行」57.0%が半数以上からあげられている。次いで、「配食サービス」24.2%、「徘徊高齢者探索サービス」21.9%、「緊急通報システム」19.1%の順となっている。



(9) 区に支援・充実してほしいこと

区に支援・充実してほしいことは、「介護保険制度に関する最新・最適な情報の提供」51.2%、「困難事例への対応」50.0%、「介護保険外のサービス体制の充実」43.8%、「介護保険制度に関するQ&Aシステムや情報交換の場の構築」43.0%、「サービス利用者や家族の介護保険制度の理解向上に向けた取り組み」35.9%の順となっている。

